

亥鼻分館ニュース

No. 1 1978.7

千葉大学附属図書館亥鼻分館報

亥鼻分館ニュースの発刊に当って

分館長 萩原 彌四郎

本学における本格的な研究図書館として「千葉大学生物医学情報図書館計画」構想が打出された昭和50年から、いろいろな委員会の検討を経て、取り敢えず亥鼻地区4部局を対象とした複合分館として、千葉大学附属図書館亥鼻分館が発足したのは今年の4月1日のことです。その間の経緯の詳細については「図書館の本」No.12の前事務部長田辺広氏の文章に譲りますが、亥鼻分館が頭書の構想を目指すという大前提には変わりありません。しかしこの分館が医学部図書館時代からの永い伝統を背負っているかぎり、直ちに全く別の図書館になるわけには行きません。むしろ従来の図書館業務を低下させることなく、さらに新しい試みを加え実績を積み上げながら、名実ともに地域の学術情報センターとなるよう努力して行くべきだと考えています。

一見、医学部分館が亥鼻分館と名前を変えただけのように見えますが、実際には大きな相違があります。まず、今まで医学部の図書係長と館員とによって運営されていたものが、独立した事務機構（P.4参照）となったことは、従来庶務・会計の面でかなりの部分を医学部に援助していただけでいたものが無くなり、自前で分館の維持運営を行わなくてはならなくなったことです。そのために昨年度までとは比べものにならない費用が必要となり、われわれは発足頭初から数ヵ月、西千葉の附属図書館や大学本部との交渉を重ね、さらに亥鼻地区4部局とも相計って、その獲得に努めて来ました。幸いに各方面の理解あるご協力を得て、今年度はどうやら実質上の運営が可能になりそうです。

つぎに大へんな仕事は、今まで医学部や活性研等の図書であったものを亥鼻分館の図書に管理換をすることです。このために日常のサービス業務を低下させないようにしながら十数万冊に及ぶ図書の管理換に館員が必死の努力を続けています。一方、4部局の図書利用の円滑を計るため、亥鼻分館運営委員会を毎月定例に開催（P.2参照）して、ご意見を伺がい調整を行なうことも進めています。さらに、旧書庫にあった2万冊余の図書、また旧病院改修に伴って保管を希望されている約5万冊の図書については、その収蔵場所が概算要求で通る望みがうすいため、頭を悩ましているところです。

これらの仕事をかかえながら、しかもサービス向上させるためにJOISの導入（P.2参照）を行ない、文献検索に便ならしめようとしています。秋には多少とも開館時間が延長するでしょうし、分館としても精一杯の努力を続けています。その一端を逐次お知らせし、各部局図書委員会各講座等の図書係の方々のご理解とご協力を得たく、分館ニュースを発行することにしました。ご一読の上、ご意見をお寄せいただければ幸いです。（脳機能研究施設長）

JOIS—オンライン情報検索サービス開始

日本科学技術情報センター(JICST)が開発したオンラインシステムによって情報検索ができるようになりました。キーワードや分類、著者名などを使ってブラウン管の画面とプリンターから打ち出される文字を見ながら文献をさがします。回答件数や回答結果の一部をみながら、質問を自由に変えて、文献の書誌データをプリントアウトします。このシステムを JOIS (JICST On-line Information System) といい、データファイルは下記の表のとおりです。端末機は図書館に設置され、近日開始予定です。申し込み方法、利用時間、料金等の詳細は後日各研究室に御連絡します。JOIS についてのお問い合わせは、内線2807 運用係まで。

データファイルの一覧表

ファイル名	蓄積期間	情報量	分野	情報源	備考
JICT 理工学 文献ファイル	1975年4月 ～ 現在	約36万件/年	理 工 学 全 般	雑誌(8,500種) レポート 会議資料	JICST 発行の「科学技術文献速報」に対応
CAC 化学 文献ファイル	1974年1月 ～ 現在	約38万件/年	化 学 化学工業	雑誌(14,000種) レポート 図書、学位論文 特許(27ヶ国)	米国ケミカル・アブストラクツ・サービス発行の「Chem Abst.」に対応
MEDLARS 医学文献ファイル	1974年1月 ～ 現在	約25万件/年	医 薬 学 学	雑誌(2,300種) モノグラフ	米国国立医学図書館発行の「Index Medicus」に対応
クリアリング ファイル	1976年度 ～ 現在	約1.5万件/年	理 工 学 全 般	アンケート結果	国内の公共試験研究機関約400機関で行なっている研究テーマを対象。

(注):各ファイルとも書誌的事項、キーワード、分類などを含みますが、抄録は含まれません。また、すべて英字・カナ文字で入力されています。

亥鼻分館運営委員会議題

第1回 4月26日(水) 16時

- 議題
- 1、附属図書館亥鼻分館設立の経緯について
 - 2、亥鼻分館の運営方針について
 - 3、昭和54年度概算要求について

第2回 5月11日(木) 15時30分

- 議題
- 1、亥鼻分館備え付けの図書館資料について
 - 2、亥鼻分館の図書館サービスについて
 - 3、亥鼻分館の維持運営費について

報告事項 昭和52年度決算(医学部分館)について

第3回 6月8日(木) 15時30分

- 議題
- 1、昭和53年度亥鼻分館共通図書及び基通基本図書について
 - 2、分館の共通図書(和、洋雑誌)の部局負担について
 - 3、昭和54年度の外国雑誌について

報告事項 亥鼻分館の図書館サービスについて

- イ、コンテンツ・サービス(生物活性研究所)の申し込みについて
- ロ、情報検索サービス(JOIS 公衆回線サービス)申し込みについて

フランス大使館寄贈医学書について

三 浦 義 彰

駐日フランス大使館に10年以上も勤務されていた科学参事館 Marc Dupuis 博士(現パリ大学教授、原子核物理学)は昨秋日本を離任する際、本学にフランスの医学書を寄贈することを約束された。Dupuis の後任者 Daniel Jacquot 博士(電気化学専攻)は本年3月来学され、西千葉の図書館本館において寄贈式が行なわれた。本学側では図書館長をはじめ、小林竜男名誉教授(日仏医科会会長)桑田、金子両教授などフランスにゆかりのある教授方の出席があり謝意を表した。

寄贈図書は次の78冊である。なかでも全3冊の医語辞典は、約15万語を包蔵し現在世界で最新最大のものといわれている。

(医学部生化学教授)

- | | |
|---|-------------------------------|
| 1. G. Sandor- Sémiologie Biologique des Protéines Sériques. | 1. 血清タンパクの各種病態時の分類書 |
| 2. J.-F. Bach- Immunologie. | 1. 免疫学の教科書(1977年版) |
| 3. Pierre-Bourgeois- Maladies de l'Appareil Respiratoire. 2 vols. | 2. 呼吸器疾患の教科書(各科1000ページ) |
| 4. J.-P. Soulier- Hépatite a Virus B et Hémodialyse. | 1. ウイルス肝炎病態(特ニ血液分析について) |
| 5. Journées Parisiennes de Pédiatrie 1976. | 1. 小児科の進歩 1976年度 |
| 6. Actualités Néphrologiques de l'Hôpital Necker 1975, 1976. | 2. 腎臓病研究の進歩 1975年, 1976年 |
| 7. Journées Annuelles de Diabétologie de l'Hôtel-Dieu 1975, 1976. | 2. 糖尿病研究の進歩 1975年, 1976年 |
| 8. M. Fèvre- Chirurgie Infantile et Orthopédie. Tome 1, 2. | 2. 小児外科の進歩(各1000ページ) |
| 9. M. Conte & S. Bonfils- Gastro-Entérologie. | 1. 胃腸病学最近の進歩 |
| 10. J.-P. Benhamou & H. Sarles- Foie, Pancréas, Voies Biliaires. | 1. 肝臓膵臓胆道学の進歩 |
| 11. G. Jost et al.- O. R. L. Ophthalmologie Stomatologie. | 1. 眼科学口腔学の進歩 |
| 12. B. Dreyfus- Le Sang. | 1. 血液学教科書 |
| 13. H. Jouy- Techniques de Base. | 1. 体腔液の微生物学的検査法 |
| 14. G. Cohen- Microorganismes et Biologie Moléculaire. | 1. 微生物学領域の分子生物学 |
| 15. F. Chapeville & A.-L. Haenni- Biosynthèse des Protéines. | 1. 蛋白質の生合成 |
| 16. A. Berkaloff et al.- Biologie et Physiologie Cellulaire. | 1. 細胞生物学 |
| 17. P. Buser & M. Imbert- Neurophysiologie, Fonctionnelle. | 1. 神経生理学 |
| 18. C. Houillon- Embryologie. | 1. 胎生学 |
| 19. C. Bouvard- L'Épileptique et les Autres. | 1. テンカン及びその周辺 |
| 20. J.-M. Pérès- Précis d'Océanographie Biologique. | 1. 海洋生物学 |
| 21. G. Fontaine et al.- L'Essentiel sur les Pacemakers. | 1. ベースメーカーのすべて(図解) |
| 22. C. Delamare-Deboutteville- Formes Primitives Vivantes. | 1. 原始的生物 |
| 23. P. Masse- Techniques Chirurgicales en Orthopédie Pédiatrique. | 1. 小児整形外科の技術 |
| 24. F.G.J. Hayhoe & R.J. Flemans- Atlas de Cytologie Hématologique. | 1. 血液学図譜 |
| 25. M. Fontaine- Éléments d'Ophthalmologie. | 1. 眼科学入門 |
| 26. G.-L. Daguet- Techniques en Bacteriologie. Tome 1, 3. | 2. 細菌学実験書 |
| 27. P. Gervais- Allergologie et Écologie. | 1. 生態学からみたアレルギー |
| 28. Tumeurs Nerveuses O. R. L. et Cervico-Faciales. | 1. 頭頸部の神経腫瘍 |
| 30. J. Trémolières- Biologie Générale. Tome 1, 3. | 2. 一般生物学入門 |
| 31. Entreliens de Bichut, Thérapeutique. | 1. Bichat 及び Salpetriere 病院紀要 |
| 32. Annales de l'Anesthésiologie Française. | 1. 肺水腫 |
| 33. L. Lapeyssonnie- Éléments d'Hygiène et de Santé Publique sous les Tropiques. | 1. 熱帯衛生学 |
| 34. Origine et Expression de la Diversité des Anticorps. | 1. 抗体のいろいろ分子生物学的研究(1976年) |
| 35. J. Verdeau-Pailles et al.- Les Techniques Psychomusicales Actives de Groupe et leur Application en Psychiatrie. | 1. 精神病の音楽による治療 |
| 36. L'Eau et les Systemes Biologiques. | 1. 水と生物(1975年国際会議の記録 英語) |
| 37. R. Küss & M. Legrain- Séminaires d'Uro-Néphrologie. | 1. 泌尿器科学セミナー |
| 38. M. Neuman- Guide des Interactions Médicamenteuses et Répertoire des Médicaments par Classes Thérapeutiques. | 1. 薬物学分類 |
| 39. J. Cambier et al.- Propédeutique Neurologique. | 1. 神経解剖学と神経病 |
| 40. Système Nerveux, Activité Sexuelle et Reproduction. | 1. 神経系と性 |
| 41. J.-C. Mounolou & P. Vigier- Précis de Genetique Physiologique. | 1. 遺伝学入門 |
| 42. G. Albot et al.- Foie et Voies Biliaires. | 1. 肝臓及び胆道疾患 |
| 43. G. Mathé- Immunothérapie Active des Cancers. | 1. ガンの免疫療法 |
| 44. M. Linquette- Endocrinologie. | 1. 内分泌学 |
| 45. J. Judet & H. Judet- Fractures et Orthopédie de l'Enfant. Tome 2. | 1. 子供の骨折 |
| 46. P. Andlauer- L'Exercice de la Médecine du Travail. | 1. 労働医学 |
| 47. P. Masse et al.- Techniques Chirurgicales en Orthopédie Pédiatrique. | 1. 下肢の整形外科 |
| 48. J.-F. Merlen- Neuvième Congrès du Collège Français de Pathologie Vasculaire. | 1. 第9回脈管病理学会議記録 |
| 49. A. Manuila et al.- Dictionnaire Français de Médecine et de Biologie. Tome 1-3. | 3. 大医学辞典 1-3巻 |
| 50. J. Bouche & Ch. Frèche- La Chirurgie de l'Arrière-Fond de la Fosse Pterygo-Maxillaire. | 1. 口腔外科学 |
| 51. P. Fleury & J. Marchand- Evidement de l'Oreille Moyenne. | 1. 中耳の外科 |

- | | |
|--|---------------------|
| 52. J. Monod- Recherches sur la Croissance de Cultures Bactériennes. | 1. 細菌の増殖 |
| 53. L. Geneves- Biologie Cellulaire. Tome 1, 2. | 2. 細菌生物学 1-2巻 |
| 54. Les Cancers Primitifs du Foie. | 1. 原発肝癌 |
| 55. P.-E. Pilet- Les Parois Cellulaires. | 1. 細胞学 |
| 56. H. Bricaud et al.- Cardiologie 1975. | 1. 心臓病学 1975年 |
| 57. C. Attal & R. Perelman- Pédiatrie 1975. | 1. 小児科学 1975年 |
| 58. Recent Results in Cancer Research. (Investigation et Stimulation Immunitaire des Cancéreux) | 1. 癌の免疫療法 |
| 59. L. Delhez- Contribution Électromyographique à L'Étude de la Mécanique et du Contrôle Nerveux des Mouvements Respiratoires de l'Homme | 1. 筋電図 特に呼吸器の筋肉の筋電図 |
| 60. J.-P. Constans- Radiothérapie des Tumeurs du Système Nerveux Central de l'Adulte. | 1. 神経腫瘍の放射線療法 |
| 61. M. Astoin et al.- Les Prostaglandines. | 1. プロスタグランジン |
| 62. P. Alexandre et al.- L'Agrégation Plaquettaire. | 1. 血小板の凝集 |
| 63. J. Hamburger- Dictionnaire de Médecine. | 1. 小医学辞典 |
| 64. B. Rybak- Cours Zoophysologie. Tome 1, 2. | 2. 動物生理学 1, 2巻 |
| 65. H. Atlan- L'Organisation Biologique et la Théorie de l'Information. | 1. 生物の情報組織 |
| 66. C.D. Deboutville- Biologie des Eaux Souterraines Littorales et Continentales. | 1. 地下水の生物学 |

亥鼻分館各係の紹介

4月より、亥鼻地区四部局一医学部、看護学部、生物活性研究所、附属病院一を主な利用対象として亥鼻分館が発足しました。場所は医学部分館そのままですが、機構改革に伴い、職員の入れかわりがあり、新たに事務長、三係の事務組織に変更しました。各研究室の図書担当の方は事務室に入ってこられて、どの係にいけば良いのか戸惑われたことと思います。少し遅くなりましたが、各係の担当を紹介します。2階の事務室には総務係、整理係、運用係の三係があります。総務係はいわゆる庶務、会計関係の一さいを行ないます。図書館利用者との関係では表に立ちませんが、管理関係等重要なところです。整理係では図書や雑誌の受入、目録、分類をします。購入希望図書や Current 雑誌の受入、製本に関する事、寄贈図書のことは整理係にたずねてください。図書館の利用者とカウンターで接するのは運用係の係員です。図書、雑誌の閲覧、貸出し、文献複写、他大学への複写申し込み、他大学からの複写依頼の受付、図書館資料をさがす手助けをするのがこの係の仕事です。遠慮なく声をかけて下さい、お手伝いします。近いうちに利用者の方の意見を聞くための投書箱を閲覧室に置く予定です。お互いの意見を交換しながら使いやすい開かれた図書館を創っていきたく考えています。ちなみに各係の内線電話は次のようになっています。 総務係 2803 整理係 2805 運用係 2807、2808 (一階カウンター)

編 集 後 記

医学部の方は御存知でしょうが以前医学部「図書館ニュース」が10回発行されました。今回の記事にもありますように医学部、病院対象の「図書館ニュース」を発展改称し、四部局対象の、「亥鼻分館ニュース」としました。No.1をお届けします。分館業務に関わる情報をタイムリーな形で流していきたいと考えています。冷房の入れすぎで電圧が上るためかよく停電する図書館です。暗い中でまた明るくなるのを待つときのような多少不安なところもありますが、だんだん良くなるように努めます。忌憚のない意見をお寄せ下さるようお願いいたします。

紫陽花が咲いています。今回は紅葉前線の南下が話題になる頃の前定です。

千葉大学附属図書館亥鼻分館 1978年7月15日
千葉市亥鼻1-8-1 電話 0472 (22) 7171 (代表)

支鼻分館 ニュース

No. 2 1978.10

千葉大学附属図書館支鼻分館報

JOISオンライン情報検索サービス

その1: MEDLARSファイルについて

9月4日にJOIS文献検索サービスを開始してひと月たちました。その間平均すると一日1~2件の利用がありました。それに用いた時間、費用等はいずれ報告したいと考えていますが、今回はJOISを使って検索できる四つのファイルのうち医学文献に関するMEDLARSファイルについて説明します。MEDLARSとは、Medical Literature Analysis and Retrieval Systemの略で、アメリカ国立医学図書館(NLM)を中心とする世界的ネットワークによって集めた医学および医学関連文献情報システムです。このMEDLARSの磁気テープからout putしたものが索引誌Index Medicus(IM)ですが、MEDLARSにはIMでは利用できない多くの情報が蓄積されています。先ずMEDLARSの対称分野としては、医学および医学関連領域として生物化学、薬学、薬理学、微生物学、生理学、心理学、獣医学、歯学、看護学が含まれます。収載雑誌はIndex Medicusの対称雑誌2432種(1977年度)の他に3種のSpecial List Journalsがあります。それはSpecial List Dental Journals(歯科学)198誌、Special List Nursing Journals(看護学)136誌、Special List Production Journals(生殖)73誌の3種で、これらの雑誌は、Index Medicusには収録されず、MEDLARSのみに入力されています。ですから看護学の研究者も効果的に利用できます。入力されたファイルは、Index to Dental Literature, International Nursing Index, Population Sciences; Index to Biomedical Researchという印刷された二次資料の情報源になっています。対称を文献内容からみると、原著論文が主体で、他に総説、臨床病理検討会、会議で発表された学術的報告、シンポジウム、パネルディスカッション、学会会員名簿、学会報告講演要旨がすべて入力されています。また実質的内容を備えていれば採択する文献として医家の伝記、死亡記事、質疑応答、翻訳論文、論説記事、編集者へのレター、短信、書誌があげられます。1976年からはモノグラフが選択的に入力されるようになりました。しかし抄録だけのもの、書評、統計類、スポンサー付きの記事は収録されません。文献数は年間約22万件入力され総計では(1974年以降現在まで)100万件を越えています。全文献中の約58%が英語文献、約42%が英語以外の言語の文献です。英語以外の言語の文献のうち約47%が英文抄録付きですが、現在のシステムでは抄録を出力できません。入力項目は、標題、著著名、雑誌名、巻号数、頁、発行年、使用言語略号、キーワード群です。以上がMEDLARSの概観です。

MEDLARSファイルを使ったオンライン検索の特徴

JOISは索引し入力された文献データテープ（この場合MEDLARSファイル）を使用して、サーチャーの作成した質問探索式と電算機でマッチングさせ該当文献を出力するシステムです。MEDLARSファイルを使ったオンライン検索の特徴を Index Medicus（手作業）との比較でみると、

- ① 文献探索の時間と労力の節約
- ② 多量の適合文献の検出—人手で探すより、もれなく多量の文献が選び出せる。—
- ③ Index Medicus では利用できない情報が検索できる。（前頁参照）
- ④ Index Medicus では使えない検索項目（チェックタグディスクリプター、マイナーディスクリプター、地理的ディスクリプターなど）を必要に応じていくつも組み合わせて利用できる。
- ⑤ 文献ファイルの早期到着— Index Medicus を印刷する時間が省かれる上に空輸で日本に送られるのでIMより早く届く。

これらの特徴を十分に活かして文献検索を行なうには予備調査をよくし、質問は調べたいテーマを狭い範囲に限定して探す方がよいと思います。特殊な化合物などに関するもので適当な MeSH 用語（検索用語）がない場合は上位概念の用語を使用するため関連性のない文献も多く含まれることがあります。検索された文献のオリジナルの入手は次の問題として残ります。

これでMEDLARSの説明を終わりますが、世界中の多くの論文が収録されているとはいえ全てではないということを一言付け加えておきます。医学文献検索用の著名な二次資料として他に Excerpta Medica があります。国際電話回線が自由化されると丸善がそのサービスを開始しますが、このファイルはMEDLARSよりも収載誌数が約1500も多くしかも互いに重複収載していないもののがかなり多いということです。両ファイルの検索比較は鈴木他²⁾の論文に詳しいのですが、世界中の文献を網羅的に探す場合はこの二つのファイルを重ね合わせて使うことがよいということになります。名分野で核になる権威ある学術雑誌はどちらにも収録されていますが、一度研究に関係のある主題の List of Journals に目を通してどれくらいがリストアップされているかを知っておくのもよいと思います。

—参考文献および引用文献—

- 1) 後藤敬治：MEDLINE—その背景とこれまでの動向；MEDLARS開発前の書誌サービス活動。医学図書館 23（3）：134—138，1976。
- 2) 鈴木重量他：エクセプタ・メディカ，メドラス，リングドックの検索比較。医学図書館 23（4）：204—218，1976。
- 3) 黒沢正彦，川野惟二：MEDLARS検索サービス利用の手引き。第3回MEDLARS検索研修会資料，1975。
- 4) 野添篤毅：Index Medicus を中心とした医学，生物学分野の二次資料の効果的利用。薬学図書館 23（3）：103—120，1977。
- 5) 太田泰弘：図書館とオンラインサービス。薬学図書館 22（4）：153—161，1977。
- 6) 川野惟二：JICSTのMEDLARS医学文献検索サービスについて。情報管理 15（3）：153—171，1972。

（運用係 五十嵐裕二）

昭和53年度 学生用図書購入リスト

(10月16日迄に閲覧室に出たもの)

(分類記号)	(書名)	(著・編者)	(出版社)	(出版年)	(冊数)
QS (人体解剖学)					
QS 4	日本人体解剖学 第3巻	金子丑之助	南山堂	1977	1
QT (生理学)					
QT 4	新生理学 上, 下 第4版	問田直幹, 内園耕二編	医学書院	1975	1
QU (生化学)					
QU 4	レーニンジャー: 生化学	A.L. Lehninger 著 中尾真監訳	共立出版	1978	1
QV (薬理学)					
QV 4	薬理学	今井昭一	日本医事新報社	1977	1
QW (細菌学および免疫学)					
QW 4	微生物学	武谷健二他	医学書院	1978	1
QW800	インターフェロン	Tyrrell, D. 著 桑田次男, 布施晃共訳	共立出版		1
QY (臨床病理学)					
QY 4	新病理学 総論, 各論	武田勝男	南山堂	1978	2
QY 4	最新病理学 改訂第2版	武内正他編	文光堂	1975	1
QY 4	臨床検査診断学	山中学, 熊原雄一編	医学書院	1977	1
QZ (病理学)					
QZ 4	病理学シノプシス	Anderson, W. A. D. & Thomas, M. S.	文光堂	1978	1
QZ 4	小病理学	梶田昭	南山堂	1978	1
W (医業)					
W18	医師国家試験問題注解 昭和54年度		金原出版	1978	1
W700	臨床医のための法医学	赤石英	南江堂	1976	1
WB (臨床医学)					
WB 100	内科学	上田英雄, 武内重五郎総編集	朝倉書店	1977	1
WB 300	新しい治療—「治療」59巻2号—		南山堂	1977	1
WB 400	糖尿病治療のためのカード式食事療法		南江堂	1975	1
WF (呼吸器系)					
WF 975	胸部の異常陰影-X線による鑑別診断-		金芳堂	1976	1
WG (心〔臓〕血管系)					
WG 141	心臓の超音波検査法 第2版	町井清編著	中外医学社	1977	1
WG 168	心臓ヘーシングの臨床	竹田泰夫, 佐藤元一	医学出版社	1976	1
WJ (泌尿生殖器系)					
WJ 141	腎・副腎・尿路疾患のX線診断	平松京一, 平松康博	医学書院	1977	1
WK (内分泌系)					
WK 100	内分泌学	吉村他編	南山堂	1978	1
WL (神経系)					
WL 100	神経症候学	平山恵造	文光堂	1971	1
WL 102	プログラム方式による神経生理学	R. S. Schmidt 著 内園耕二, 佐藤昭夫訳	医歯薬出版	1973	1
WL 335	脳の統御機能 1, 3	伊藤正男他編	医歯薬出版	1978	1
WL 355	脳卒中片麻痺とリハビリテーション	三島博信	医学書院	1977	1
WL 368	外科神経学	佐藤文明	中外医学社	1975	1

WM (精神医学)

WM30	開かれている病棟	石川信義	星和書店	1978	1
WM90	心身医学の実地診療	池見西次郎	医学書院		1
WM203	精神分裂病の治療	L.J.West & D.E.Flinn	星和書店	1978	1
WM203	精神分裂病	K.Conrad	医学書院	1973	1
WM400	精神障害者のデイ・ケア	加藤正明	医学書院	1977	1
WM460	情緒発達精神分析理論	D.W.Winnicott	岩崎学術出版	1977	1
WM460	家族治療の基礎理論	N.W.Ackerman 他編	岩崎学術出版	1974	1
WM460	家族関係の病理と治療	全 上	全 上	1977	1
WM460	家族関係の理論と診断	全 上	全 上	1972	1

WN (放射線医学)

WN200	臨床X線診断学 第4巻 腹部1, 2	齊藤達雄他	医学書院	1971-74	2
-------	--------------------	-------	------	---------	---

WO (外科学)

WO100	外科学	榊原什他編	朝倉書店	1978	1
WO178	手術前後の新しい管理	石川浩一他	南山堂	1978	1
WO200	麻酔学提要	森岡享	金原出版	1977	1
WO200	臨床麻酔学書 上, 下巻	山村秀夫編	金原出版	1977-78	2
WO925	小児外科学	石田正統編著	診断と治療社	1975	1
WO925	植田小児外科	植田隆	科学評論社	1976	1
WO925	小児外科必携	古味信彦他	医学図書出版	1976	1

WR (皮膚科学)

WR105	皮膚病理組織学	池田重雄他編	金原出版	1978	1
-------	---------	--------	------	------	---

WS (小児科学)

WS352	やさしい子どもの精神科	佐藤尚信, 矢野徹	星和書店	1978	1
-------	-------------	-----------	------	------	---

WT (老人医学・慢性疾患)

WT100	老人患者のマネジメント	日野原重明他	医歯薬出版	1977	1
-------	-------------	--------	-------	------	---

WV (耳鼻咽喉科学)

WV17	耳科学アトラス-形態と計測値一	野村恭也, 平出文久	中外医学社	1974	1
WV100	新耳鼻咽喉科学	切替一郎	南山堂	1976	1

WW (眼科学)

WW100	眼科診療の実際 改訂第6版上, 下巻	庄司義治	金原出版	1976-78	2
-------	--------------------	------	------	---------	---

WX (病院)

WX100	世界各国の病院制度WHO		日本公衆衛生協会	1974	1
-------	--------------	--	----------	------	---

WY (看護)

WY56	がん患者の看護	赤松隆他	医学書院	1976	1
WY87	人間行動の理解	F.C.Kempf & R.H.Useem	医学書院	1977	1
WY101	問われ, 問いつづける看護	外口玉子編著	星和書店	1977	1
WY152	慢性疾患看護シリーズ 2: 脳卒中後遺症患者の看護		日本看護協会	1977	1
	〃 4: 糖尿病患者の看護		〃	1977	1
	〃 5: 心疾患々者の看護		〃	1977	1
	〃 9: 肝・胆道疾患々者の看護		〃	1978	1
	〃 10: 呼吸器疾患々者の看護		〃	1978	1
WY160	新しい精神医学と看護	西園昌久	医学書院	1977	1
WY161	脳神経外科の専門看護	池田卓也編	メジカルフレンド社	1978	1

非医学書

376.1	子どもの発達と遊び	R.I.Hartley 他	岩崎学術出版	1978	1
-------	-----------	---------------	--------	------	---

閲覧室単行書の分類替実施について

昭和51年度の受入図書から、分類法を医学書については、NLMC（米国国立医学図書館分類法）に、一般図書（非医学書）については、NDC（日本十進分類法）に切替えました。切替えの理由については「図書館ニュース第9号」を参照して下さい。閲覧室の資料が二年あまりの間旧分類法（Boston Medical Library Classification）との併用で、図書検索上、御不便をおかけしましたが、この夏季休業中に、分類替を行ない、前記のNLMCとNDCに統一しました。閲覧用目録カードについては、順次訂正してゆく予定です。洋書の目録カードは分類番号の訂正だけですが、和書の目録カードは、51年度受入分より標目のルビをそれまでの訓令式ローマ字からヘボン式に改めたため、分類替された閲覧室の図書のカードは、著者、書名目録とも51年度以降受入のカード・ケースに繰込まれます。分類替した図書の分類目録カードも、和洋編目別に51年度以降受入のカード・ケースに、ファイルされます。

厚生省特定疾患および大阪府特定疾患調査研究班による研究報告は、P-WDの記号で疾患名のABC順に、単行書とは別に配架してあります。NLMの分類法は、器官による細分を優先させ、その体系と交叉する概念を扱った代謝・アレルギー等の疾患は、WD群に分類されます。厚生省特定疾患および大阪府特定疾患中に、器官別に分類出来るもの、例えば重症筋無力症、ネフローゼ症候群等がありますが、成因・治療・予防について究明中の特定疾患の研究報告ですので分類はWD群にまとめました。国際会議の議事録（Excerpta Medica, Internatinal Congress Series 等）も、Iのイニシャルで分類順に単行書とは別に配架してあります。これは旧分類がそのまゝ残って居りますので相関索引を御利用下さい。

最近の受入資料をみると、医学・看護学の他に一般図書として、NDCに分類されるもの、主な領域に、心理学・社会学・人類学・教育学および工学（コンピューター関係）等があります。人間の生命科学は、身体的にはウィールス菌、抗生物質、新薬の発明、麻酔技術、医療器械等によって処理されますが、一方において、それは人間を社会的・文化的存在としてとらえ、心理的、情緒的諸問題を考慮して、合理的分析が行われます。以上の資料・事柄から判断しますと、従来の Medical Science Library から Life Science Library（仮想）に、その流れはゆるやかではありますが、変わりつゝあると思います。そして、Life Science というファセットから考慮した場合、相関連する分野が、異った分類体系にはいりません。例えば心身障害児に関する資料の場合、医学的研究・診療の他に特殊教育・社会福祉の問題等があります。それらは別々の分類体系にはいりませんが、サリドマイド障害児の研究等、それらが一つのカテゴリーとして、とらえられることがあります。共同執筆などによって、そのカテゴリーから編集されている場合など、どのように扱うか問題点が残ります。又、人類の生態系秩序を考えると、微生物の世界から、環境問題、生態学・人類学・宇宙の生命のリズムへと、ミクロの世界からマクロの世界まで考えられます。これも二つの分類体系に分かれますが、本質的には、広い意味の「衛生学」というファセットから、とらえることが出来ると思います。

以上考慮したい問題はありますが、ともあれ図書館は公共のサービス機関ですので、最も多く採用されている権威ある分類法に基づいて資料の整理を行っております。

（整理係 中山いほ）

お知らせ

1. 開館時間について

○ 9月4日より下記の通り開館時間を延長しました。

月～金 9:00～20:00

土 9:00～16:30

2. Journal 展望について

○ 大阪大学附属図書館中之島分館発行の「NAKATO NEWS」に連載されているものをコピーしてファイルにとじてあります。各主題毎に核になる雑誌10点くらいをとりあげ解説しています。



学部別貸出冊数 (1978年4～9月)

	医学部		附属病院		看護学部		活性研	その他		合計	
	学生	教職員	附属校生	教職員	学生	教職員	教職員	学生	教職員	学生	教職員
4	260	26	29	42	127	6	17	33	12	449	103
5	426	57	132	35	187	6	8	56	29	801	135
6	437	48	123	37	188	11	10	55	21	803	127
7	168	34	62	27	139	10	9	40	7	409	87
8	60	33	11	46	38	7	1	10	3	119	90
9	315	79	39	37	189	9	10	26	22	569	157
計	1,666	277	396	224	868	49	55	220	94	3,150	699

(教職員—医員, 研修医を含む)
学生—大学院生, 研究生を含む)

附属図書館亥鼻分館運営委員会

第4回 7月13日 (休)

- 議題 (1) 昭和53年度亥鼻分館共通基本図書について (2) 昭和53年度亥鼻分館学生用図書について
報告事項 (1) 昭和53年度亥鼻分館維持運営費について (2) 亥鼻分館ニュースの発行について
(3) 夏期の閲覧業務について

第5回 8月10日 (休)

- 議題 (1) 昭和54年度外国雑誌購読申し込みについて
報告事項 (1) 図書館運営委員会について (2) 昭和53年度共通基本図書選定委員会について

第6回 9月12日 (火)

- 議題 (1) 昭和54年度購読国内雑誌について
報告事項 (1) 時間外開館について (2) 昭和54年度外国雑誌について (3) 学生用図書について
(4) 昭和53年度共通基本図書について (5) JOISオンライン情報検索サービス実施について

編集後記 「シラケの時代は終わり若者は今、ものを訊き、そして何かを熱っぽく語り始めた。」

これは投稿の急増を伝えるある雑誌の特集記事。亥鼻分館に投書箱を置いて3ヶ月、もの申す人の言葉は入っていなかった。図書館サービスが量質ともに充分とは考えられず、図書館の必要性と期待度を示すもの言わぬ投書とうけとれぬこともない、自戒。学生用図書は今回のリスト以外にも入る予定のものがあります。新しい本も増えるし大いに利用してほしいと思う。

病葉、手編みのセーター、手はポケット、日だまりが恋しい頃。次回は桃の芽のふくらむ頃を予定しています。(い)

〈追〉印刷屋に原稿を入れる真際に、職員の方から資料不足についての意見がありました。次号でお答えしたいと思います

亥鼻分館 ニュース

No. 3 1979. 3

千葉大学附属図書館亥鼻分館報

利用者として図書館に思うこと

看護学部 兼 松 百合子

昭和52年4月に私が本学へ着任した頃は、現在の亥鼻分館は医学部附属図書館とい、看護学部の者には、まず何となく“借物”といった感じがしたことは事実である。しかし実際に中に入り、職員の方々の懇切な応待に接し、また、当時、続々と入りつ、あった看護関係の図書及び資料をみて、たちまちその印象が変わってしまったことも事実であった。そこで53年4月1日より亥鼻地区四部局の複合分館として亥鼻分館が発足したことは、私には誠に自然なことに思われた。

看護学部の学生からも、以前は「あれは医学部の図書館でしょう」という声が度々聞かれたが亥鼻分館となって一層身近になったことは、昨年度の学生の図書利用状況調べからも頷かれることである。ところで、このように分館になってより多くの人々に利用されることは喜ばしいことであるが、閲覧のためのスペースが狭いことは利用者にとって大変不便である。朝早くか夕方ないと落ち着いて文献検索など出来ない。学生が大勢で討議しながら勉強している風景もよく見られるが、外国の大学図書館のように、閲覧室と隣接してカンファレンスルームが備えられているとよいと思う。

次に目録カードを見ると、1966年以降の約30,000冊のものが閲覧室内のカードボックスに納められているとのことであるが、閲覧室にあるものは3,000~4,000冊で、その他は別棟の書庫が各部局各講座に分散しているのが現状である。各講座に照会すると大抵丁寧に調べて下さるが、時間や距離や先方の手数を考えるとなかなか手が届き難い感じがして、分館内に集められていざと願わずにはいられない。また、単行書の配架については、新しい分類が採用されて改善された点も多いが、なお看護学を中心みると、「看護」や「Nursing」の語がタイトルに入っている本だけが看護学の項に一括してあり、患者心理、保健指導、患者教育など、看護と密接な関係にある図書がすべて医学の各項や一般書の方に配架されているのはいかにも不自然である。Life Science Library として総合的な分類配架が望ましい。

私は53年度より学部の図書委員をしているが、学生用、講座用という購入方針になお戸惑っている。分館にあるものは主として学生用で、限られた予算の中で購入されるとすると、学生の目に触れるものは限られたものになってしまう。それでは学習意欲や視野の広がりを期待できないのではないかと考える。膨大な知識の宝庫をまのあたりにし、ほしい資料が容易に豊富に手に入るという環境の中でこそ、限りない探究の心が育っていくのではないかとと思われる。また大学の図書館の発展は単にスペースや予算の確保だけでなく、学生の自己学習を前提とする教授方法を重視することや、利用者全体の意識やモラルの高まりにより達成されると考えている。

J O I S オンライン情報検索サービス

その2：C A C化学文献ファイルおよびT O X L I N E 毒性文献ファイルについて

前回はMEDLARSファイルについて簡単に説明しました。当館で最も利用されるのがこのファイルですが、次に利用の多いのがC A C化学文献ファイルです。このファイルを「J O I S利用の手引き」により説明し、さらに2月よりT O X L I N E毒性文献ファイルが追加されましたので紹介します。なおJ O I Sで検索できる5つのファイルのうち残りのJ I C S T理工学ファイルは科学技術文献速報に対応するものですが、環境公害編の医・農学の部は除かれていますので説明を省きます。またクリアリング情報ファイルは理工学分野において国公立研究機関で現在進行中の研究課題情報ファイルです。しかし生物学、医学、農学の分野は入っていませんのでこれも略します。

(イ)C A C化学文献ファイル

アメリカ化学会の下部組織である Chemical Abstracts Service (C A S) が提供する C A C (Chemical Abstracts Condensates) ファイルです。対象分野は化学全般(生化学、有機化学、高分子化学、応用化学、化学工業、物理化学、分析化学)のみならず薬学などその周辺分野にまで広く及んでいます。対象原資料は125以上の国の延べ14,000種の逐次刊行物、26ヶ国の特許および世界中の主要な会議資料、学位論文、政府刊行物を対象としています。Vol.80 No.1 (1974年1月発行分)から検索が可能です。検索は分類コード(C Aのセクション番号、サブセクション番号)、キーワード(自由キーワード)、著者名からさがすことができます。

(ロ)T O X L I N E毒性文献ファイル

日本科学技術情報センターの資料によるとT O X L I N E毒性文献ファイルは、N L M (米国国立医学図書館)がC A S、B I O S I Sなど7機関で作成されたファイルを再編集して提供するものです。主に毒物学とその関連分野を対象に14,000種に及ぶ逐次刊行物、特許会議資料、学位論文、政府刊行物などから記事を抽出し、現在約50万件の蓄積を有し、さらに毎月約一万件の新規データが追加されます。各種化合物の毒性、安全性、また生物体への作用、影響などについての文献を集中的に検索するうえで極めて重要なファイルです。化学工業全般をはじめ、広く医薬品関係、食品加工関係の研究者にとって有効な情報ツールとなります。

(ハ)ファイルのサービス時間

サービス時間	月	火	水	木	金
10:00~12:00	J I C S T M E D	J I C S T C A C	C A C M E D	J I C S T M E D	J I C S T C A C
13:00~16:00	C L E A R T O X	C L E A R		C L E A R T O X	C L E A R

(注) ○J I C S TはJ I C S T理工学文献ファイル ○C A CはC A C化学文献ファイル ○M E DはMEDLARS医学文献ファイル ○C L E A RはC L E A R I N G国内研究案内ファイル ○T O XはT O X L I N E毒性文献ファイル

昭和53年度 学生用図書購入リスト

QS (人体解剖学)

- (1) Illustrated human embryology-V.1-3. Tuchmann, D et al.
 (2) The developing human; clinically oriented embryology. 2.ed. Moore, K.L.

QT (生理学)

- (3) 身体障害児のレクレーション Pomeroy, J

QU (生化学)

- (4) レーニンジャー生化学
 (5) Biochemistry. Freeman International ed. Stryer, L.
 (6) Acidebase regulation. 2.ed Masoro &

QV (薬理学)

- (7) The pharmacological basis of therapeutics. 5.ed. Goodman & Gilman ed.
 (8) 薬理学 改訂第5版 伊藤 宏
 (9) 薬理学実習 自治医科大学
 (10) 今日の治療薬 —解説と便覧— '78年9月追補 宮本昭正 水島裕美

QW (細菌学および免疫学)

- (11) 最新医微生物学 改訂第3版 吉野亀三郎編
 (12) 腸内細菌 (I) 坂崎利一
 (13) 微生物の新しい分類学 長谷川武治編
 (14) がんウイルス 高野利也
 (15) 医学・生物学のための免疫学入門 Weiser, R.S.
 (16) 免疫学要説 Roitt, I.M
 (17) 目でみる免疫学 —基礎から臨床へ— Good, R.A. & Fisher, D.W
 (18) Immunology in medicine. Holbarovo & Reeves ed.

QY (臨床病理学)

- (19) 臨床診断学 検査編 阿部正和等編
 (20) 臨床検査の知識と介助 柴田進等編

QZ (病理学)

- (21) 病理学実習 森井外吉他
 (22) 病理学 改訂第3版 今井環等編
 (23) 病理学 第2版 影山圭三編
 (24) 病理学各論 1, 2 赤崎兼義編
 (25) 最新病理学 —構造と機能—改訂2版 竹内正他
 (26) 病気の構造 —病理学の視点から— 藤本輝夫
 (27) 図説組織病理学 第5版 Sandritter, W
 (28) Inflammation and antiinflammatories. Arrigoni-Martelli, E.

W (医業)

- (29) 系統的にみた医学・生物学領域の英語術語辞典 宮野成二
 (30) 医学略語辞典 野田喜代一他
 (31) 医学英和大辞典 縮刷版 加藤勝治編
 (32) 英和医学辞典 大矢全節
 (33) 蘭和医学辞典 大矢全節編
 (34) 医師国家試験問題コピー集 第57回(昭和49年)~第66回(昭和53年)
 (35) 医学研究者名簿 1978~1979 北博正編
 (36) 理工のための医学 佐々木正吾編
 (37) Butterworths Medical Dictionary. 2. ed.
 (38) Interviewing the patient. Engal & Morgan.

WA (公衆衛生)

- (39) 環境衛生学入門 小泉 明
 (40) 保健・医療計画 —システム科学によるアプローチ— & Reinke, WA.
 (41) 公衆衛生学 Williams, K.N.
 (42) 小衛生学書 曾田長宗他
 (43) 疫学—臨床家のための方法論— 青山英康
 (44) 厚生白書 昭和53年版 重松逸造編著
 (45) 母子保健概論 松本清一
 (46) 小児保健学 第2版 中山健太郎編著
 (47) 産業医学 野村茂
 (48) 人間環境と健康障害 WHO
 (49) 環境汚染論 Waldboff, G.L.
 (50) The dynamics of health care. 2.ed. French, R.M.
 (51) Encyclopaedia of occupational health and safety. v.1,2 Internetal Labour Office.

WB (臨床医学)

- (52) 図説臨床内科講座 第1~3巻: 内分泌・代謝 1~3
 (53) 症候群辞典 田坂定孝等編
 (54) 新臨床内科学 第2版 阿部正和等編
 (55) 胃・十二指腸潰瘍のすべて 吉利和編
 (56) 新内科診断学 吉利和
 (57) 内科シリーズ No.14 貧血のすべて 中尾喜久編
 (58) 今日の治療指針 1978 石山俊次他
 (59) 問診と面接の技術 堀川直義
 (60) 面接による患者心理の理解 改訂版 Bird, B.
 (61) 人体ツボの研究 芹沢勝助
 (62) 臨床診断学 診察編 阿部正和等編
 (63) Health assessment. Malasanos, L.

WC (感染症)

- (64) ウイルス肝炎—急性肝炎から肝癌まで— 鈴木宏, 林康之

WE (筋肉骨系)

- (65) 身体運動の基礎 —図解筋機能— 高木公三郎
 (66) 整形外科教科書 増補改訂 児玉俊夫
 (67) 臨床整形外科全書 1~6
 (68) 身体障害・すまい・都市環境 野村歆他
 (69) Textbook of disorders and injuries of the musculoskeletal system. Reprint ed. Salter, R.B.
 (70) The spine. v. 1, 2 Rothman & Simeone

WF (呼吸器系)

- (71) 新結核病学概論 島尾忠男編
 (72) 臨床呼吸器病講座 全3巻 滝島任他編
 (73) 呼吸体操の実施法 Charpin, J. etc.
 (74) Lung cancer: clinical diagnosis and treatment.

WG (心〔臓〕血管系)

- (75) 心臓外科チームの為の患者管理の実際 第2版 Straus, M.J. ed.
 Behrendt, D.M. & Austen, WG.
 (76) 心筋硬塞 日野原重明
 その新しい理解と診断・治療・生活・管理 太田 伶

WI (胃腸系)

- (77) 外科病理胃癌取扱い規約 改訂第9版 胃癌研究会
 (78) Diseases of the liver. 4. ed. Schiff, L.

WJ (泌尿生殖器系)

- (79) 泌尿器科学 Smith, D.R.
 (80) 泌尿器科学 (現代医学双書) 高井修造
 (81) Physiology of the kidney and body fluids. 3. ed. Pitts, R.F.
 (82) Emmetts clinical urography. 4. ed. vol. 1-3.

WK (内分泌系)

- (83) 糖尿病 阿部正和, 平田幸正

WL (神経系)

- (84) ベッドサイドの神経のみかた 田崎義昭, 齊藤隆雄
 (85) 神経学 第1~6巻 沖中重雄監修
 (86) 神経系の構造と機能 Guyton, A.C.
 (87) 脳卒中—救急診断から治療まで— 亀山正邦, 田崎義昭
 (88) 脳神経外科学 改訂2版 太田富雄, 西村周郎

WM (精神医学)

- (89) 小精神医学書 改訂2版 加藤伸勝
 (90) 面接入門—コミュニケーションの精神医学— 木戸幸聖
 (91) 精神病理—その分析と臨床像— Freeman, T.et.al.
 (92) 精神医学入門 西丸四方
 (93) 人間の心と性科学 1, 2 徳田良二, 小林司編
 (94) 心理検査学—心理アセスメントの基本— 岡堂哲雄編
 (95) 分裂病の精神病理 1~3 土井健郎編
 (96) ケースワーク—心理社会療法— Hollis, F.
 (97) 医療心理学 大段智亮
 (98) 最新精神医学—精神科臨床の基本— 諏訪望

WN (放射線医学)

- (99) 放射線医学入門 立入弘, 重松康編著
 (100) 新放射線医学 尾関己一郎, 松浦啓一編

WO (外科学)

- (101) 標準外科学 第2版 武藤, 相馬編
 (102) 小麻酔科書 改訂5版 兵頭正義

WP (婦人科学)

- (103) 図説臨床産婦人科講座13~20 メジカルビュー社
 (104) 小婦人科書 改訂3版 杉山陽一
 (105) 臨床・病理乳癌取扱い規約 第4版 乳癌研究会

WQ (産科学)

- (106) 最新産科学 正常編、異常編 真柄正直著・室岡一改訂
 (107) 妊産婦保健管理 松本清一

WS (小児科学)

- (108) 写真でみる新生児の観察と取扱い 島田信宏
 (109) 小児科学年鑑 1978~'79年版
 (110) 臨床小児科全書 全4巻
 (111) 小児臨床検査成績のよみ方、考え方(「小児科臨床」30巻12号)
 (112) 新小児科学 加藤英夫等編
 (113) 小児の治療保健指針
 (114) 続・発達生理学(「小児医学」11巻1号)
 (115) 小児の正常値 馬場一男等著
 (116) 児童臨床心理学事典
 (117) 乳幼児栄養テキスト 国分義行
 (118) 自閉症 1, 2 Bettelheim, B.
 (119) 最新育児の理論と実際(「総合乳幼児研究」臨時増刊号)
 (120) 小児自閉症 Rutter
 (121) 乳児の発達—写真でみる0才児— Haas

WT (老人医学、慢性疾患)

- (122) 創老期の医学 上、下 Anderson, WF.

- (123) 老年精神医学 加藤正明, 長谷川和夫編
 (124) 老年病学 村上元孝, 亀山正邦共編

WV (耳鼻咽喉科学)

- (125) 耳鼻咽喉科学入門 鈴木篤郎
 (126) 耳鼻咽喉科学 野坂保次監修

WY (看護)

- (127) 看護学教育全書2:看護学教育 長尾十三二, 山田里津編
 (128) "3:看護教育の実際 長尾十三二, 山田里津編
 (129) 系統看護学講座 18:母性看護学 松本清一他
 (130) 最新看護学全書 29:耳鼻咽喉科 堀口由作, 浜口健
 (131) 心理・社会的問題をもつ患者への援助 松本照子編
 (132) 話の聴ける看護婦になるために 上野 轟
 (133) ナースに必要な診断の知識と技術 日野原重明等著
 (134) 内科・外科の看護 1~15巻 シューファー等編
 (135) 疾患別術前術後の看護 金子みつ他
 (136) The press of patient teaching in nursing Redman, B.K.
 (137) Community health nursing. Leahy, et. al.
 (138) Assessment and management of developmental changes in children. Erickson, M.L.

WZ (医学史)

- (139) 明治前日本医学史 全5巻 増訂復刻版

NDC (非医学書を対象)

- (140) 分析心理学 Jung, C.G.
 (141) 方法としての面接—臨床家のために— 土居健郎
 (142) 写真集 明治、大正、昭和 千葉 鳥海宗一郎編
 (143) 家族動態の理論 Harris, C.C.
 (144) 家族生活の社会学 松原治郎, 高橋均, 細川幹夫
 (145) 家族周期論 森岡清美
 (146) 集団力学入門—人間関係の理解のために— 岡堂哲雄
 (147) 現代日本の家族—動態・問題・調整— 家族問題研究会
 (148) 家族の診断と治療 山根常雄訳編
 (149) 子ども白書 1978年版 日本子どもを守る会
 (150) 発達の遅れた子どもの日常指導 森上史朗, 抽木毅共編
 (151) 障害をもつ子どもの症状別日常指導 "
 (152) " 遊びの日常指導 "
 (153) ことばの障害をもつ子どもの学習の日常指導 "
 (154) ことばの遅れと障害の日常指導 "
 (155) 理科年表 第52冊(昭和54年) 東京天文台
 (156) 教養講座 ライフサイエンス
 1, 3, 5-9, 11-14, 17, 18, 20, 21, 23-25.
 (157) 岩波講座 現代生物科学
 1-1, 1-2, 3, 5, 7, 13, 14, 16, 17.
 (158) 動物細胞学 I, II 小川和朗編
 (159) 大漢和辞典 全13巻 縮写版 諸橋 徹次
 (160) 大独和辞典 相良守峯編
 (161) マルタン仏和辞典
 (162) 岩波 ロシア語辞典 増訂版 八杉貞利
 (163) 研究者羅和辞典 増訂新版 田中秀央編
 (164) 詩集「病者・花」—細川宏遺稿詩集— 小川鼎三編
 (165) 失語症の歌—手記・脳外科手術 患者の復権— 山田一影
 (166) クローニン全集 1-9, 11-22.

投 書 箱 か ら

—利用者のいけん—

○できれば結構ですが動物の学名辞典で「～科」程度まででもわかるようなものが一つ亥鼻分館に備えてあればたすかるのですが。実は先日「Philosamia ricini」という言葉がどんな動物に当るのかを調べていましたところ、調べ方がわかったのかもかもしれませんが、この図書館ではみつからず千葉県立中央図書館に電話をかけてきいたことがありました。無理なお願いかもしれませんが御検討いただければ幸いです。

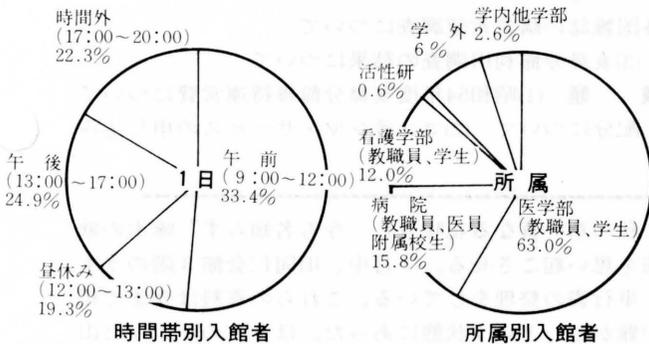


—係からのこたえ—

○御返事が大変おそくなりました。図書館として購入できるかどうかを検討し、さらにどういふ本があるかを調べました。医学部動物実験施設の先生や出版社に問い合わせた結果、北隆館発行の「昆虫大図鑑 全三巻」の購入が決まりました。1, 2巻は既刊ですすでに閲覧室に配架されましたが、3巻は発行されしだい入ることになっています。上記の質問は1, 2巻で調べることができました。これからも図書館の不備な面を指摘して下さい幸いです。

利用アンケート調査集計

(実施期間 1978. 11. 27～12. 2)



利用目的

月日	人 間 覧					及図 書帯 却出	コ ピ ー	J O I S (注2)	そ の 他
	関 覧 (注1)	雑 誌	単 行 書	資 二 料 次	資				
11/27(月)	20	26	24	6	35	31	2	33	
28(火)	21	22	13	3	25	18		9	
29(水)	16	23	21	5	18	16	3	23	
30(木)	21	19	15	5	16	15	1	21	
12/1(金)	32	22	22	2	31	19	1	19	
2(土)	22	26	12	10	17	21		16	

(注1)特に小区分のないもの

(注2)火曜日はMEDLARSなし 土曜は使用不可

小さなまとめ

○実施期間が医学部学生の試験期と重なったため、学生の入館者が多くしかも午前中に集中した。普段は必ずしも午前中が多くはない。閲覧機の不足が目立ったため、二階に机をふやすことになった。雑誌の利用とコピーは重複利用がほとんどと思われる。雑誌の利用については、どんな雑誌がより利用されるのかというさらにきめ細かい調査が今後に残されている。アンケートに答えて下さった方たちの御協力に感謝します。ありがとうございました。

お 知 ら せ

1. 図書館利用のしおり（1979年）ができあがります。
 専門課程に入る医学部、看護学部学生、附属校新生生には配ります。その他の方で必要とされる方は図書館カウンターにおいて下さい。
2. 4月9日から時間外開館を行いません。
 3月17日から休止していましたが再開します。
 平日 20:00まで 土曜 4:30まで
3. 学生の方は図書帯出券をつくり直して下さい。
 古い帯出券は3月31日まで有効のものです。図書館カウンターで交付しています。



学部別貸出冊数 (1978年10月～1979年1月)

	学 医 学 部		附 属 病 院		看 護 学 部		活 性 研	その他	備 考
	学 生	教 職 員	附 属 校 生	教 職 員	学 生	教 職 員	教 職 員		
10	432	62	46	69	200	12	9	45	30日より大学祭等のため休館
11	427	73	151	27	210	5	18	63	4日まで大学祭等のため休館
12	294	53	105	25	232	2	8	73	27日より年末休館
1	266	63	132	24	249	6	18	81	5日より開館
計	1419	251	434	145	891	25	53	262	

(教職員＝医員、研修医を含む) 学生＝大学院生、研究生を含む)

亥 鼻 分 館 運 営 委 員 会

- 第7回 10月26日(木) 議 題 (1)昭和54年度購読国内雑誌について
 報告事項 (1)夜間開館について (2)昭和53年度上半期図書館利用状況について
- 第8回 11月21日(火) 議 題 (1)1979年コンテンツ・サービスの実施について
 報告事項 (1)亥鼻分館利用状況実態調査について
- 第9回 12月14日(木) 報告事項 (1)外国雑誌の購読希望調査について
 (2)年末年始の休館等について (3)亥鼻分館利用調査の結果について
- 第1回 (昭和54年)1月25日(木) 議 題 (1)昭和54年度亥鼻分館維持運営費について
 報告事項 (1)学生用図書購入費(第2次)配分について (2)コンテンツ・サービスの申し込み結果について

編 集 後 記 “学校の図書館の裏の秋の草 黄なる花咲きし 今も名知らず”啄木の歌にある図書館という文字は暗い閉架の図書館を思い起こさせる。3月中、旧同仁会館3階のうす暗い仮書庫に入り医科大学時代からの雑誌、単行書の整理をしている。これらの資料は今まで相互貸借等で利用の依頼があってもさがすのが難かしいという状態にあった。ほこりのかぶった山積みの資料を前には図書館は図書館でないという声もしづみがち。「図書館における館の観念の打破」とはいい古された言葉ではあるが死語でない。

ソメイヨシノの頃。袋一つさげてサクラ前線と一緒に北へ向け歩いた旅人の話を思い出す。袋の中は、旅、漂泊、自由、あこがれ、ひるね雲。旅人は亥鼻山をも歩いたろうか。満開の頃、亥鼻分館は2年目のスタートです。(い)

千葉大学附属図書館亥鼻分館

1979年3月20日

千葉市亥鼻1～8～1

電話 0472(22)7171

亥鼻分館 ニュース

No. 4

1979. 6

千葉大学附属図書館亥鼻分館報

亥鼻分館の現状と将来

分館長 萩原 彌四郎

生れた時に50センチほどの赤ん坊の身長は、1年後には約1.5倍の75センチあまりに成長する。昨年4月1日に誕生した亥鼻分館は、今どの程度になっているであろうか。結論から先に言えば、亥鼻分館のこの一年は、館員一同の努力と関係各位の好意あるご協力のおかげで、人間零歳の成長にひけを取らない伸びを見せたといえると思う。

53年度の亥鼻分館運営費の決算額は前年度のほぼ2倍となった。これは独立した亥鼻分館としての最低限の体裁をととのえるため、旧同仁会食堂に未整理のままに収納されていた約2万冊の蔵書を、閲覧可能なように配架するため、文献索引のためのJOIS端末機を購入・稼動するため、閲覧室の書架に天板・側板をとりつけ、フラワーボックスを入れるなどして閲覧の環境を整備するためなどに有効に使用された。

亥鼻分館の時間外開館時間は昨年9月から延長され、分館利用者も増えたが、その年間実数はつかめなかった。そのかわり、分館利用状況を調べてみると別掲のとおりで、館外貸出冊数は、8,781冊、公用文献複写枚数は182,381枚と、それぞれ前年度の1.4倍、1.43倍に増加している。またJOISの文献検索サービスも昨年9月から開始し、好評裡に利用者が増えつつある。亥鼻4部局に対するコンテンツサービスは前年度の各5タイトルから7タイトルにしたが、総タイトル数427は前年度の1.47倍である。これらの状況をお知らせし、分館へのご理解を深めていただくために分館ニュースを発行することにしたが、年度内に3号まで出すことができた。なお分館運営についてのアドバイスをいただくための分館運営委員会は53年度内に10回開催されている。

54年度に入って最も嬉しかったことは、亥鼻分館運営費および共通基本図書費が、附属病院ならびに生物活性研究所の理解あるご協力により、ルールにのって執行される目安のついたことである。恒産あれば恒心ありという。このことによって図書館本来の業務に一そう専心することができるようになった。

亥鼻分館はその成立のいきさつからいって、生物医学情報図書館構想をふまえた上で、経過措置として発足したものである。従って将来の目標はあくまでも地区のセンターとしての生物医学情報図書館を設立することであり、亥鼻地区整備委員会によって予定されている位置に、亥鼻地区にあるすべての蔵書を収納できる書庫と、広く静かな環境の閲覧室、それに近接して視聴覚室、カンファレンスルーム、さらに能率的な事務室、情報処理室等を備えた図書館をつくることである。しかし、亥鼻地区では目下教育研究棟の改修工事が行なわれている最中であり、整備計画の中には医学部実験動物施設、学生の厚生施設等の新・改築、病院付近の環境整備などがあげられている上、改修された教育研究棟へ基礎教室が移転した後の現医学部本館の利用計画もある。亥鼻分館としては前述の将来構想をなるべく早期に実現したいが、亥鼻地区全体のこのような流れに従う必要もあり、暫くの間は現医学部本館の一部を、書庫として利用する方向で検討を重ねている。

これについて問題があるのは書庫というものの特異性である。書庫の床は1㎡当り 500kgの加重に耐えるべきものとされているが、現医学部本館の建物は1㎡当り 200～230 kgの加重にしか耐えない。万一基準計算通りの増築分相当の1,400㎡の広さに、全蔵書を収納すると床が抜けて思わぬ事故を起こしかねない。関係各位の了承を得て基準より大巾に広い面積を利用させてもらうこと、これを開架方式の閲覧書庫とし、エレベーターを用いて利用者の便を計ることなどが、亥鼻分館の当面の目標である。

亥鼻図書分館2年目を迎えて

眼科学教室 石川 清

千葉大学附属図書館亥鼻分館が亥鼻地区4部局（医学部、附属病院、生物活性研究所、看護学部）の複合図書館として発足してからすでに1年3ヵ月近くにならんとしている。此の間萩原分館長を中心に桜木事務長、総務係、整理係、運用係の方々の努力は大変なものがあったと思われる。兎に角亥鼻分館が運営面において順調に実質的な機能を發揮している点図書委員の一人としても御同慶に堪えないところである。編集子から何か書くようにとのことですので思いついたままを書くことにする。

千葉大学生物医学情報図書館構想に寄せて

永い伝統ある医学部図書館は発展的解消し亥鼻分館として発足し、事務機構も独立して充実したわけであるが、昭和50年頃話題にのぼった生物医学情報図書館というユニークな計画は未だに記憶新たなものがある。現在亥鼻分館に対する希望を個人的なものとして考えるならば次の如くなる。

1. 図書の中央化
2. 閲覧室の拡張
3. 古書記念室の増設
4. カンファレンスルーム、テールームの増設
5. 単行書・新刊書の配架の整備
6. 複写機の整備・増設
7. カードボックスの整備

このように考えてみると現在の亥鼻分館ではスペースの問題もあって全く夢のような話になってしまう。しかし亥鼻分館より生物医学情報図書館への道も遠いものとは考えずに生かしていきたいものである。

現実の問題は基礎棟移転後の亥鼻分館の運営であろう。分館長を中心とする運営委員会で十分に検討して頂きたい。旧職員食堂にある図書の移換、各講座にある古い図書の中央移換、東洋医学古書並びに日本の眼科古書の記念室等も考えて頂きたい。できれば学生の談話室の1つ位欲しいものである。問題は山積しているが前向きに進みたいものである。

附属病院と亥鼻分館

膨大な職種の人員をかかえる附属病院には病院籍の医師のみでも400名以上に達する。長年の慣例で臨床講座では校費で購入した図書は各教室に保管している。以前の如く臨床講座や研究施設が病院と同居していた頃は何の不都合もなく不便を感じることはなかったし、医学部図書館にも親しみがあつた。この度新病院が完成して少しく離れた所で診療に従事してみると、同じ時期に発足した亥鼻分館が何か疎遠になったような錯覚にとられる。附属病院の図書委員は科長のみからなり、たまたま私が委員長であるが、各構成組織より委員は出ていないので委員会は構成されていない現状である。

亥鼻分館が4部局の複合分館であるという原則に立つならば附属病院にも図書委員会を作り、病院各層の意見や希望を開陳する場を作り、亥鼻分館に何等かの意思の疎通ができるならば、亥鼻分館に対する認識と親しみを一段と昂めることができるのではないかと考えるものである。

昭和53年度 学生用図書購入リスト

- Q S (人体解剖学)**
- (1) Clinical Anatomy for Medical Studies. Snell, R.S.
 (2) Clinical Embryology for Medical Students. 2. ed. Snell, R.S.
 (3) The Developing Human. 2. ed. Moore, K.L.
 (4) 解剖実習の手引き 寺田, 藤田
- Q T (生理学)**
- (5) 生体の制御情報システム 宇都宮敏夫
 (6) Medical Physiology. V.1,2. 13. ed. Mountcastle, V.B.
 (7) Textbook of Medical Physiology. 5. ed. Guyton, A.C.
- Q U (生化学)**
- (8) 大学の生物学・生化学 丸山 工作
 (9) 酵素学の基礎 小倉安之編
 (10) A Century of DNA Franklin, H & Jack, S
- Q V (薬理学)**
- (11) Molecularbiology and Pharmacology of Cyclic Nucleotides. Folco, G & Paoletti. ed.
 (12) Antibiotics in, Clinical Practice. 3. ed. Smith, H
 (13) Kremers and Urdang's History of Pharmacy. 4. ed.
 (14) 臨床応用漢方処方解説 矢数道明
 (15) 漢方医学大系 1,2: 論説篇 上, 下
 (16) 〃 3: 治療篇
 (17) 〃 4,5: 薬物・薬方篇 上, 下
 (18) 〃 6: 処方集, 漢方医学講座
 (19) 〃 7: 漢方カード
 (20) 〃 8~11: 漢方入門 1~4
 (21) 〃 12: 宗版示旧 傷寒論
 (22) 〃 13: 和訓傷寒論
 (23) 〃 14: 類聚方・金匱要略方解説
 (24) 〃 15: 金匱要略・和訓金匱要略
 (25) 〃 16: 医籍解説・考証・医史学篇
 (26) 〃 17: 随想・座談・針灸編
- Q W (細菌学および免疫学)**
- (27) エピゾーム 渡辺 力
 (28) 免疫遺伝学 ヒルデマン・渡辺他訳
- Q X (寄生虫学)**
- (29) Introduction to Parasitology Chandler, R
- Q Y (臨床病理学)**
- (30) 臨床に必要な血液型の知識 2版 国行昌頼
- Q Z (病理学)**
- (31) 癌と放射線治療 重松 康
 (32) Atlas der Pathologischen Anatomie.
- W (医業)**
- (33) Otolaryngologic Clinics of North America. V. 2
 (34) Erinnerungen eines Deutschen Arztes. Lousis, G.F.
 (35) Vienna Medical School the 19 Century. Lesky, E
 (36) 日本医師会 野村 拓
 (37) 医師ベチューンの一生 R・スチュワート
 (38) ジュリスト臨時増刊 医事判例 100選
 (39) 食品公害論 丸山 博
 (40) 現代医療論 川上 武
 (41) 医学概論 I, II, III 澤 瀧 久 敬
- (42) 医学と社会 川上 武
 (43) 医療と人権 川上 武
 (44) 医療的認識の探求 中川 米造
 (45) ジュリスト臨時増刊 医療と人権
 (46) 実践的医学概論 和気 朗
 (47) 市民の医学 川上 武
 (48) 医療経済思想の展開 日野、野村
 (49) 日本医療の経済学 川上 他 編
 (50) 障害者医療の思想 高谷、加藤
 (51) 転換期の医療 川上 武
 (52) 医療社会化の道標 川上 武 編
 (53) 医療政策論攷 1, 2 野村 拓
 (54) 講座現代の医療 1, 市民と医療
 (56) 〃 3, 医療保障
 (56) 〃 4, 医学教育
 (57) 〃 5, 医療産業
 (58) 講座 医療政策史 (増補) 野村 拓
 (59) 日本医療の課題 川上 武
 (60) 日本医療の進路 医療経済研究会編
 (61) 日本の開業医 川上 武
 (62) 現代の法医学 石山 昱夫
 (63) Going to See the Doctor Stimson & Webb
 (64) Some Famous Medical Trisls. Reprint of 1928
- W A (公衆衛生)**
- (65) 生きる条件 増補改訂版 久保全雄
 (66) 疫学 - 原理と方法 - MacMahon
 (67) 小児保健学 第2版 中山健太郎編
 (68) 地域保健活動 橋本正巳
 (69) クロム禍の労働医学的研究 (公害職業病シリーズ 2)
 (70) 医療と福祉 川上 武
 (71) 近代保健思想史序説 汲田 克夫
 (72) 地域医療 I, II 益子、野村編
 (73) 食品衛生学概説 相磯、加藤
 (74) 大気汚染と健康破壊 南 雲 清
 (75) 国民衛生の動向 (53年度) (厚生指標特集)
 (76) 社会医学研究 1, 乳児死亡 丸山 博
- W B (臨床医学)**
- (77) A Color Atlas of Physical Sigus in Medicine. Zatouroff
 (78) Adam's Physical Diagnosis. 15. ed Burnside, J.W.
 (79) 日本の医者 川上 武
 (80) PO内科診断マニュアル
 (81) 中国漢方医学概論 南京中医学院編
 (82) 漢方治療の方証吟味 細野史郎
 (83) 臨床応用 傷寒論解説 大塚 敬節
 (84) 傷寒論講議 奥田 謙 藏
 (85) 東洋医学概説 長 浜 善 夫
 (86) 和訓類聚方広義重校業徴
- W C (感染症)**
- (87) History of Malaria in the Roman Campagna from Acient Times. Ball, J

WD

(88) Sodium and Water Homeostasis. Brenner & Stein

WE (筋肉骨系)

(89) Fractures. V. 1, 2 Rockwood & Green

(90) 整形外科学および外傷学 森崎 編

(91) 頸椎障害の社会医学 増補版 牧野 忠康

WF (呼吸器系)

(92) 働らくものの呼吸器疾患 - その原因から予防まで - 海老原 勇

(93) 新しい検査法からみた呼吸器疾患の診断

(94) じん肺とのたたかい (公害職業病シリーズ1) 海老原 勇

(95) 全身性疾患と肺 中尾、三上

(96) The Lung. 2.ed Comroe, J.H. et al

(97) Diagnosis of Disease of the Chest. V. 1, 2. Fraser, P.

WG (心 [臓] 血管系)

(98) Clinical Scaler Electrocardiography. Lipman, M.

(99) Cardiac Diagnosis and Treatment. Fowler, N.O.

(100) Clinical Phonocardiography and

Etaternal Pulse Recording Tavel, M

(101) 心臓カテーテル法 今野 章二

WH (血液およびリンパ系)

(102) 現代血液学 基礎と臨床 中尾 喜久 編

(103) 血液型と輸血 (新版日本血液学全書10)

WI (胃腸系)

(104) 現代外科手術学大系 12: 胃・十二指腸の手術

WJ (泌尿生殖器系)

(105) Pathology of the Kidney. V. 1, 2, 2.ed Heptinstall, R.H.

WL (神経系)

(106) 神経学の歴史 Mchenry, L.C

(107) 臨床神経学 第2版 椿 他 編

(108) 神経病理を学ぶ人のために 平野 朝雄

(109) 現代の神経科学 1~4

(110) Technique of the Neurologic Examination.

(111) Principles of Neurology. Adams & Victor

(112) A Textbook of Neurology. 5.ed Merritt, H.H.

(113) Correlative Neuroanatomy and Functional Neurology. Chusid & McDonald.

(114) The Anatomy of the Nervous System. Ranson, S.W.

(115) Human Neuroanatomy. Malcolm, B.B.

(116) Medical Neurobiology. Grpssman, W.

(117) Neurological Surgery in

Infancy and Childhood. Matsa

(118) 脳疾患のレ線診断 原 一夫 編

(119) 脳卒中の外科 鈴木 二郎

(120) 小児の脳神経外科 Till, K.

(121) 頭蓋内疾患の初期診療 植村 研一

(122) 現代の脳神経外科 森 安信 雄

WM (精神医学)

(123) 精神薄弱の医学 ベンローズ

(124) Comprehensive Textbook of Psychiatry. V. 1, 2. 2.ed. Freedman, A.M.

WN (放射線医学)

(125) CT スキャンニングによる人体横断面図譜

(126) X線診断学 改訂第11版 御園 生 他

(127) 核医学 3版 安河内、木下

WO (外科学)

(128) 新臨床外科全書 1: 外科総論 他 18 Vols.

(129) 出生前の医学 - 先天異常の基礎と臨床 -

(130) Surgical Emergencies in the Newborn. Holler & Talbert.

WP (婦人科学)

(131) 図説臨床産婦人科講座 25巻: 産婦人科と麻酔

(132) Gynaecology Illustrated. Garrey

(133) Current Obstetric & Gynecologic & Diagnosis & Treatment. 2.ed. Benson, R.C.

(134) Novak's Gynecologic and Obstetric Pathology.

WQ (産科学)

(135) American Midwives: 1860 to the Present.

(136) Labor among Primitive Peoples. Engelmann, G.

(137) Obstetrics Illustrated. 2.ed.

WR (皮膚科学)

(138) Histopathology of Skin Lever.

WS (小児科学)

(139) 現代の小児科学 改訂2版 若生、泉

(140) 最新小児医学 改訂3版 鈴木 他 編

(141) 現代の小児科学 改訂2版 若生 他 編

(142) Heart Disease in Infants, Children and Adolescents. Moss, A.J.

WT (老人医学, 慢性疾患)

(143) 寿命を決定するもの バーネット

(144) 口腔粘膜疾患診療図説 西山 茂夫

WU (歯科学, 口腔外科 [学])

(145) 耳鼻咽喉科学 下巻 第2版 白岩 他 編

WV (耳鼻咽喉科学)

(146) 角膜移植の臨床 桑原

WW (眼科学)

(147) Patient Teaching in Critical Care. Storlie, F.

(148) 病院管理大系 全6巻

WX (病院)

(149) 人間として看護婦として

(150) 痛みをもつ患者の看護

(151) Quality Patient Care Scale. Wonelett, M.A. & Anger, J.W.

(152) Community Health Nursing: Evolution and Process.

(153) History of Medicine. 1961.

(154) Medicine: An Illustrated History. Lyons, A.S.

(155) Bibliography of the History of Medicine. 1964-1969, 1970-1974

(156) Greek Medicine. 1936. Blund, F.

(157) The Philosophy of Medicine: the Eary 18th Century.

(158) The Medicine Man of American Indian.

(159) Healing: Pagan & Christian. Dawson, G.D.

(160) Sir Charles Bell's Manuscript of Drawings of the Arteries. Harold, C.

(161) 覆刻日本古典全集: 本草和名 下巻

(162) 〃 : 医心方 1~7

(163) 〃 : 重訂本草綱目啓蒙 1~4

NDC (非医学書)

(164) 群書系図部集 全7巻 他30点

JOIS オンライン文献検索アンケート集計結果

- (1) 使用ファイル
 ①MED (10) ②CAC (3) ③未記入 (1)
- (2) オンライン検索は
 ①初めて (9) ②2回目 (4) ③3回以上 (1)
- (3) 出力文献のうち適確なものはどれくらいありましたか。
 出力文献数 (140)件
 適確であるもの (67)件
 関連性のあるもの (34)件
 不適確なもの (31)件
- (4) 出力文献に
 ①満満足した (8) ②多少満足 (4)
 ③不満 (2)
- (5) 不満足の原因は (具体的に)
 ・Keyword が少なすぎる 1名
 ・検索語の選択に原因 2名
- (6) 不適確文献の内容に一定の傾向がありましたら書いて下さい。
 ・回答なし
- (7) 出力した文献のうち学内で入手できたものは()%くらい
 ・0~19% 1名 ・50~69% 1名
 ・20~49% 2名 ・70~100% 1名
 学外へ申し込んだ件数は(7)件
 そのうち海外へは(3)件
- (8) 検索費用について
 ①高すぎる (3)
 ②この程度でよい (12)
 ③安い (0)
(意見:より安くねばより利用しやすくなると思いますが)
- (9) 今後も使用しますか
 ①使用したい (14)
 ②再考してみたい (0)
 ③不用 (0)
- (10) その他の意見
 ・ファイルは最低10年分ほしい



—コメント— JOIS 開始当初から使用者に対し用紙を渡し、打ち出し文献を検討した後で図書館に提出してもらった。回収は14しかなかった。現在は行っていない。

[1] 館外貸出冊数 昭和53年度亥鼻分館利用状況

利用者所属別	医学部		附属病院		看護学部		活性研	その他	合計
	学生	教職員	附属校生	教職員	学生	教職員			
貸出冊数	3,608	687	1,050	407	2,113	83	130	703	8,781

* 開館日数：294日 (時間外開館日数：228日)

[2] 文献複写

1. 受託 (公用)

部局名	医学部	附属病院	看護学部	活性研	他学部	外学公用	亥鼻分館	合計
複写枚数	139,565	3,452	595	3,203	984	2,919	31,663	182,381

(私用)

部局名	医学部		病院		看護学部		活性研	他学部	亥鼻分館	学外者	合計
	教官	学生	教医員	附属校生	教官	学生					
件数	13	546	134	47	5	129	4	125	7	1,783	2,793

(52,900枚)

2. 依頼 (他図書館へ)

部局名	医学部		附属病院		看護学部		活性研		合計
	公用	私用	公用	私用	公用	私用	公用	私用	
件数	57	548	12	437	1	4	75	65	145
									1,054

[3] JOIS (昭和53.9.4~54.3.31)

所属	MED. ファイル(注1)		CAC. ファイル		TOX. ファイル(注2)		オンライン		移行額(注3) 単位:円
	使用回数	使用時間	使用回数	使用時間	使用回数	使用時間	使用回数	文献数	
医学部	84	1,242分	5	45分	1	39分	27	5,426件	366,470
附属病院	1	10	0	0	0	0	0	0	1,450
看護学部	2	22	0	0	0	0	0	0	4,500
活性研	9	142	5	41	1	0	2	400	45,275
合計	96	1,416	10	86	39	39	29	5,826	417,275

注1: MEDLARS ファイル可能日 96日 注2: TOXLINE ファイルは54年2月1月開始 注3: 諸経費、電話料、雑費込み

お知らせ

1. 英国国立図書館貸出部 (BLLD) への文献複写申込
(校費取扱) について

従来は私費申込だけ取扱っていましたが本年度から校費申込の取扱いを開始しました。

2. 文献探索ガイダンスを計画しています。

医学部4年生と看護学部4年生に対して文献を探す手助けになるようなガイダンスを企画しています。現在、学4に対し予備調査としてのアンケートをお願いしていますが、その結果によって具体化を考えていく予定です。

3. 夏休み中の特別貸出について。

受付期間 : 7月7日～8月27日
貸出冊数 : 2冊 (雑誌を除く)
返却期限 : 9月3日(月)

4. 開館時間の変更について

期日: 7月23日～9月1日
月～金: 9:00～17:00
土: 9:00～12:00



附属図書館亥鼻分館運営委員名簿

昭和54年5月1日現在

部局名	氏名	部局名	氏名
分館長	萩原 彌四郎	生物活性研究所	林 誠
医学部	林 豊	〃	西村 和子
〃	内田 昭夫	附属病院	石川 清
看護学部	須永 清	〃	降矢 震
〃	平山 朝子	附属図書館	杉山 裕

亥鼻分館運営委員会

第2回 3月8日 (木)

報告事項 (1)分館長会議について (2)春季休業中の時間外開館休止について

第3回 4月12日 (木)

議 題 (1)昭和55年度概算要求について (2)昭和55年度外国雑誌購読希望調査について
報告事項 (1)亥鼻分館運営委員の交替について (2)昭和53年度亥鼻分館利用状況について

第4回 5月10日 (木)

議 題 (1)昭和54年度亥鼻分館共通図書について (2)亥鼻分館書庫 (医学部基礎棟の利用計画) 取設けについて
報告事項 (1)亥鼻分館運営委員の交替について (2)昭和53年度亥鼻分館決算について
(3)附属図書館長、分館長会議について

編集後記 4月初旬、新しく亥鼻分館の利用者になる医学部1年生と看護学部2年、3年生に図書館に来てもらい、それぞれを2班に分け計6回図書館の使い方や資料の配置等について簡単に説明しました。口もうまく回らず説明不足のガイダンスでしたがそれから二ヵ月、説明を聞くよりも積極的に利用することで熟れてくれたようです。今回の学生用図書のリストでわかるように単行書は昨年度にひきつづき増加しています。資料の充実と共に環境も良くなれば申し分ないのですが、省エネルギーの夏、暑い図書館になるかもしれません。

3,000mの高みにある穂高山荘は立派な図書室をもっています。本の量もさることながら、その涼しさがなんとも魅力です。純白の山なみは望めなくとも高山の涼風が吹きぬけてくれたらと思う梅雨の合間。葉洩れ日の中、紫陽花とかたつむりの話は入道雲と向日葵へのこと。日のうつろい。(い)

千葉大学附属図書館亥鼻分館
千葉市亥鼻1～8～1

1979年6月25日
電話 0472 (22) 7171

亥鼻分館 ニュース

No. 5 1979. 10

千葉大学附属図書館亥鼻分館報

JOISを利用して感じたこと

生物活性研究所 西村和音 子

1978年4月1日に亥鼻地区4部局の複合図書館として亥鼻分館が発足して1年半、単なる寄せ集めではなく新たな情報図書館として生まれ変わろうとしている。その間の生みの苦しみとも言うべき、萩原分館長、桜木事務長をはじめとする館員の方々の御苦労には感謝の気持ちでいっぱいである。

情報図書館の重要な機能として JOIS 情報検索サービスがある。そこで、この度は活性研内の JOIS 利用者より耳にした意見、希望、3回程利用してみた筆者の印象などを述べてみたい。これから利用される方々に多少とも参考になれば幸いである。

JOIS を利用するのに最も大切なことは、言うまでもなく検索用語の選び方である。まず検索用語集を見て、選んできた言葉の有無、スペルを確認する必要がある。その際、形容詞つきの検索用語、例えば細胞性免疫は Immunity, Cellular で出てくるので注意がいる。確認したら、係の方とよく相談して検索用語の適否、in putする組合せ、順序などを決める。最初に筆者がとまどったのは MEDLARS の場合、上位概念の用語があることであった。例えば、Pathogenicity を並みの検索用語としてある病原真菌と共に in put したところ異常に少ない件数を答えてきたので、上位概念語として用いたら、予想に近い件数となった。まず、主要語と上位概念語の組合せを決め、内容を限定する言葉をいくつか用意し、答の件数を見ながら、次々と対応してゆき、大体予想に近い件数が出てきたら out put してもらおうとよいと思われた。また、件数が少ない時は $A \times B$ 、 $A \times C$ の両方を out put してもらい、両方のデータをつき合せてよい結果が得られたこともあった。筆者の検索テーマ "*Cryptococcus neoformans* の病原性" のように件数はあまり多くないが、内容の範囲が広い時は上記の要領が参考になるかも知れないが、多数の報告がある研究分野では適切な限定語を加えていくことが大事であろう。

MEDLARS の場合、生物系の研究検索には限界があるようである。ある利用者の話によれば NADH-Oxydoreductase を検索したら、1500件あまりあり、その多くは臨床データでどうしても酵素学的研究にしばれなかったという。同じ言葉を薬学会展示場の丸善のサービスで調べたら20数件になったそうで、BA とオンラインしてほしいと強く希望された。

研究所内ではCACの利用も多い。CACの場合、検索用語が多く選択が自由で検索しやすく感じられた。ある病原真菌の二形性を検索するため、筆者は最初 MEDLARS の検索用語集にあたったが、それほど特殊ではない二形性という言葉を直接、間接に現わす用語を見い出せなかった。CACでは検索用語として採用されており10件近い答えが得られた。当然ではあるが、その性状に関する形態学あるいは生物学的研究の検索には不十分で、筆者もまたBAまたはそれに

代る生物系のファイルとのオンラインを望む1人である。

以上、拙い経験を述べてみたが、いずれの研究分野でも必要とする情報量は増えるばかりで、コンピューターによる検索はかかせぬものになってゆくと思われる。JOISの一層の充実を期待したい。また、利用者もお互いに情報を交換し合って、JOISの長所、短所をよく把握して上手に能率よく使いこなしたいものである。

亥鼻分館共通基本図書の中から

(1) Science Citation Index (SCI) 1977年・1978年累積版

この資料は、既知の文献が誰によって、何という論文に引用されたかを調べる索引です。また既知の文献の主題と関連のある文献を得るのにも使います。つまり特定の理論とか、新事実として問題になったりした事柄が、その後どのように発展したかを調べたり、総説を書いたりする時に役立つ資料です。この索引は次のような考え方にもとづいています。ある論文の著者がすでに出版されている文献を参照(引用)していれば、そのことはその著者の論文とその文献の主題とは関連性があることを示しています。また主題における既知の文献との関連性ばかりでなく、新しい論文も同じ文献を参照(引用)していれば相互に主題の関連性があるのが普通です。このような関連性を利用して雑誌文献の引用索引は、同じ論文を参照(引用)した新しい論文を全部えらび出してひとまとめにしたものです。

SCIはCurrent Contentsなどを作っているISI社(Institute for Scientific Information)が発行しているもので、世界中で最も重要な自然科学雑誌約2700点について全掲載論文と主要記事をカバーし毎年約400,000点が索引されています。1965年版を基にした調査では医学分野に分類される雑誌が約45%を占め、純粋科学が約30%、工業工学が約15%となっています。SCIは3部門、Citation Index, Source Index, Permuterm Subject Indexから成っています。

Citation Index: 一定の期間内にどんな既発表文献がカレントな文献の中で参照(引用)されているか、そしてどの雑誌の中で引用されているかを示します。まず引用された文献の著者の名前によりアルファベット順に配列されます。その引用された各文献の後には引用をおこなったカレントな論文リストが続きます。これらも著者名のアルファベット順に並べられています。

著者不明の文献を引用した論文や、個人ではなく機関が著わした文献を引用している論文も収載しています。

Source Index: SCIによって毎年カバーされる約400,000点以上の論文の著者索引です。索引を付されたすべての論文に対し、それぞれの全タイトル、著者全員の名前、雑誌名、巻、ページ数、発行年などを含む書誌的事項を完全に記載しています。

Permuterm Subject Index: 著者がつけたタイトルをそのまま取り上げ、その中の重要な語彙はすべて検索用語として使用します。論文のタイトルに含まれている単語はそれぞれ同じタイトルの中の他の単語と一対になるように組み合わせられて、各論文につき二段階の索引用語がいくつか出き上がります。それがアルファベット順に並べられ、その語彙を論文のタイトルの中で使用した著者の名前と連結させています。(近日入荷予定)

以上が資料のあらましですが手元にまだありませんので下記の文献を参考にして紹介しました。

(1)津田良成 Science Citation Index -1961及び1964年版- 医学図書館 11(5) 219-220, 1964

(2)裏田和夫 Science Citation Index の使い方 医学図書館 18(2) 167-178, 1971

(3)紀伊国屋書店 Science Citation Index -利用の手引き-

(2) 医学中央雑誌累積版

日本で最大の医学抄録誌である医学中央雑誌の5年間の累積版です。301巻～360巻一昭和48年9月～53年10月一約60万件の文献を科目別に累積細分類し24シリーズ全40分冊として約2年半にわたり刊行されます。分類目録、著者索引、物件索引の3部門からなり各科目共通の収録誌一覧も付きます。現在年間12巻発行されていますので製本されたものでも12冊繰らなければ1年間分を探したことはありません。それが科目別、分類別に5年分の文献が集成されているのですから、適及的に文献を探すときの手間と時間が大幅に短縮され、もれも少なくなります。発行が少し遅れていて第1回配本が10月18日予定です。

昭和53年度 学生用図書購入リスト

OS (人体解剖学)

- (1) Atlas of Clinical Anatomy. R.S. Snell.
- (2) Subcellular Biochemistry. V.5 D.B. Roodyn.
- (3) ブルームフォーセット組織学 1, 2.

QT (生理学)

- (4) ティミラス生理学—発育と老化のしくみ
- (5) Physiologie des Menschen. Schmidt.

QU (生化学)

- (6) ホワイト生化学 1, 2. 5版 White
- (7) Biochemistry. N.V. Bhagavan.

QV (薬理学)

- (8) 漢方医学大系 18 総索引 龍野 一雄
- (9) ストライヤー生化学 上, 下.
- (10) Side Effects of Drugs Annual. 3.

QW (細菌学および免疫学)

- (11) 微生物学 俵 寿太郎
- (12) 医学ウイルス学 ホワイト
- (13) ウイルス学 植竹久雄編
- (14) Biology of Animal Viruses. F.K. Fenner
- (15) ロアット免疫学要説
- (16) Basic & Clinical Immunology. H.H. Fundenberg.

- (17) Structural Concepts in Immunology and Immunochemistry. E.A. Kabat.

- (18) Immunology for Students of Medicine.

- (19) 感染症 C.A. Mims.

QX (寄生虫学)

- (20) Animal Parasites. O.W. Olson.

QZ (病理学)

- (21) Allgemeiner Pathologie. O.W. Olson.
- (22) Atlas of Pathologic Anatomy. W. Doerr.
- (23) 現代の病理学 総論 横山 武他
- (24) ボイド病理学 2
- (25) ボイド病態学 W. Boyd.
- (26) 図説基礎病理学 赤井・松尾
- (27) 予防ガン学 1977 平山 雄
- (28) 環境科学からみたがんの予防 平山 他訳
- (29) 現代中国の癌医療 杉 充胤訳
- (30) ススルタ大医典 1, 2, 3. 伊東・鈴木訳

W (医薬)

- (31) Cold Spring Harbor Symposia on Quantitative Biology. vol. 41, no.1 & 2.
- (32) 医療六法・昭和54年版
- (33) 地域保健活動の動向と課題 橋本 正巳
- (34) エッセンシャル社会法医学 青木・向井
- (35) Legal Medicine Annual. 1978.
- (36) Gradwohl's Legal Medicine. Camps et al.

WA (公衆衛生)

- (37) 総合衛生公衆衛生学 藤原充典他編

WB (臨床医学)

- (38) 図説臨床内科講座 第7巻: 呼吸器1
- (39) Cecil Textbook of Medicine. Beeson et al.
- (40) 療養のコツシリーズ—胃腸病療養のコツ—
- (41) " —腎臓病 " —
- (42) " —肝臓病 " —
- (43) " —高血圧 " —
- (44) " —脳卒中 " —
- (45) " —リウマチ " —
- (46) " —心臓病 " —
- (47) " —糖尿病 " —
- (48) " —ぜんそく " —
- (49) 新内科学大系 1 ~ 既刊分 30冊
- (50) 香川式食事法 1 ~ 6
- (51) 新編食事療法シリーズ 1 ~ 13
- (52) リハビリテーション・マニュアル K.B. Washburn.
- (53) 写真でみる運動療法の実際 大塚 塚
- (54) 写真でみる片麻痺のリハビリテーション 大塚 塚

WC (感染症)

- (55) Dynamics of Tropical Disease. G. Macdonald.

WD (欠乏性疾患)

- (56) 膠原病 —その理解のしかた・診かた・生活指導—

WE (筋肉骨系)

- (57) Orthopaedics, Principles and their Application.

WF (呼吸器系)

- (58) ヒンショウ呼吸器病 原沢直美訳
- (59) The Human Pulmonary Circulation. Harris et al.

WL (神経系)

- (60) 神経科学講座 1 ~ 3, 5, 6.
- (61) Brain's Diseases of the Nervous System.

- (62)Functional Approach to Neuroanatomy. E.L. House
 (63)Core Text of Neuroanatomy. M. Carpenter.
 (64)Fundamentals of Neurophysiology. R.F. Schmidt.
 (65)The Neurobiology of Behavior. G.T. Magenson.
 (66)Diagnostic Neuroradiology. 1,2. J.M. Taveras.
 (67)脳の統御機能 2: 内分泌と脳 伊藤正男等編
 (68)脳の統御機能 4: 運動の中樞メカニズム 伊藤正男等編
 (69)人体脊髄並に脳幹に於ける知覚伝導経路 久留 勝
- WN (放射線医学)**
 (70)Handbuch der medizinischen Radiologie.
 XV/2: Nuklearmedizin.
- WO (外科学)**
 (71)新臨床外科全書 2: 腫瘍外科総論
 (72)新臨床外科全書 3: 脳神経外科・自律神経外科
 (73)現代外科手術学大系 10, 14.
 (74)Pediatric Surgery. Vol. 1, 2. M.M. Ravitch
 (75)Surgical Emergencies in the Newborn. J.A. Haller.
- WP (婦人科学)**
 (76)図説臨床産婦人科講座 21~24, 26, 27
- (77)Manual of Gynecologic and Obstetric Emergencies.
WS (小児科学)
 (78)Nelson Textbook of Pediatrics. Vanghar et al.
 (79)三歳児 - 幼児の保健指導 - 船川幡夫他編
- QY (臨床病理学)**
 (臨床検査法提要 金井 他
- WZ (医学史)**
 (81)医学文献の探しかた
- WY (看護)**
 (82)看護・医療の歴史 J.A. Dolan
 (83)看護の歴史 セー マー
 (84)看護研究の手びき
 - 卒後教育のために - M.Wandelt.
 (85)看護の原理と実際 2: 観察・評価と看護婦の役割
 (86)看護の原理と実際 3: 基本的ニードと援助
 (87)寝たきり老人の家庭看護
- NDC (非医学書)**
 (88)SP SS. 統計パッケージ 1, 2.
 (89)医統計学 上村 桂

New Subscription 1979 (Foreign Periodicals)

- | | | |
|---|-----------------|-------|
| (1) American Journal of Maternal Child Nursing. | 4(1979)- | 母 看 |
| (2) Annals of Neurology. | 1(1978)- | 神 内 |
| (3) Archives of Andrology. | 1(1978)- | 図 書 館 |
| (4) Arthritis & Rheumatism. | 22(1979)- | 内 2 |
| (5) Atherosclerosis. | 32(1979)- | 図 書 館 |
| (6) Biophysical Journal. | 25(1979)- | 図 書 館 |
| (7) Cell Biology: International Reports. | 3(1979)- | 生 化 1 |
| (8) Child Development. | 50(1979)- | 小 看 |
| (9) Child Development Abstracts and Bibliography. | 53(1979)- | 図 書 館 |
| (10) Dissertation Adstracts International. A & B | 40(1979)- | 図 書 館 |
| (11) Enzyme. | 24(1979)- | 図 書 館 |
| (12) Genetics. | 91(1979)- | 図 書 館 |
| (13) Hospital & Community Psychiatry. | 30(1979)- | 神 経 |
| (14) Instructional Course Lecture. | 19(1979)- | 整 外 |
| (15) International Journal of Andrology. | 2(1979)- | 泌 尿 |
| (16) International Journal of Social Psychiatry. | 25(1979)- | 神 経 |
| (17) Journal of Cardiovascular Pharmacology. | 1(1979)- | 機 代 |
| (18) Journal of Child Psychology & Pschiatry. | 20(1979)- | 精 看 |
| (19) Journal Française d'Ophthalmologie. | 2(1979)- | 図 書 館 |
| (20) Journal of Immunological Methods. | 25(1979)- | 図 書 館 |
| (21) Journal of Neurology. | 217(1977)- | 神 内 |
| (22) Medical Informatics. | 4(1979)- | 医療情報部 |
| (23) Mutation Research. | 59(1979)- | 図 書 館 |
| (24) Physiologist. | 22(1979)- | 図 書 館 |
| (25) Prostaglandins. | 17(1979)- | 生 化 1 |
| (26) Psychological Abstracts. | 61(1979)- | 図 書 館 |
| (27) Psychophysiology. | 16(1979)- | 神 経 |
| (28) Revue Neurologique. | 135(1979)- | 図 書 館 |
| (29) Scandinavian Journal of Haematology. | 22(1979)- | 内 2 |
| (30) Spine. | 4(1979)- | 整 外 |
| (31) Survey of Ophthalmology. | 23(4-6) (1979)- | 図 書 館 |
| (32) Tissue Antigens. | 13(1979)- | 図 書 館 |
| (33) Trends in Neuroscience. | 2(1979)- | 図 書 館 |
| (34) Vision Research. | 19(1979)- | 図 書 館 |
| (35) Xenobiotica. | 9(1979)- | 図 書 館 |
| (36) Year Book of Nuclear Medicine. | 1979- | 放射線部 |

資料紹介

「医学文献の探し方—医学研究者のためのわかりやすいガイド—」

第20回医学会総会編集 1979

第20回日本医学会総会は「医学文献の検索と利用—未来の図書館のために—」を展示企画の一テーマとした。その記念出版物として刊行されたものである。当日会場でも販売されたということなので入手した方もいると思われる。本書を読むことで医学文献の入手、図書館の利用に対してより一層の理解を得られると思うので紹介します。今まで洋書では、Use of Medical Literature や How to Use Medical Library というまとまった本があったが、日本においては医学文献探索のための資料および方法を総合的、体系的に扱ったガイドというものがなかった。(個々の二次資料についてはあるが)医学情報の蓄積形態とそれに伴う検索の方法が大きく変化しつつある今日、本書の刊行は時宜を得たものであり医学図書館員にとっても待ち望まれていたものである。

全体は7章に分かれ、1.情報の効果的利用への道 2.二次情報サービスの実践的な使いかた 3.図書館を上手に利用するには 4.医学書の探しかた 5.文献リストの作りかた 6.医学分野の情報機関リスト 7.医学論文を書く・学会で発表する—その前に—という構成になっている。

第1章の一次資料の発生については、情報の生産過程を時間的な観点から説明を加え、その流れに沿って展開した方がシステムテックに理解できると思う。(とり上げる順序はそうになっているが説明がほしい)しかし本書の特徴は二次資料、特に“オンライン検索の利用”にある。増えつづける情報を収集、整理、利用するにはコンピューターの力によるところが大きく、検索には各種のデータベースが利用されている。それゆえ第2章では“オンラインを上手に利用するには”という項目をたて解説を加えている。亥鼻分館でもJOISオンラインサービスを行なっているが、これを読むことによって、より深い理解を得られることと思う。もちろんマニュアルによる二次資料の使いかたの解説も加えられている。

文献リストの作りかたの章では、引用文献リストの作りかた、雑誌名の省略等が参考になります。本書の編集者の一人は、他の雑誌上で「あくまで文献情報についての素人向けに著わしたものである」と述べているが、若い研究者は各章を通して一読されれば文献入手、図書館利用について大いに役立つものと思います。

また、一方的に図書館の理解を押しつけるつもりはなく、医学図書館員も利用者の要求把握や適切に対応できる力を培う意味において必読の書といえる。

図書館閲覧室に2冊あります。本の背にWZ-345というラベルをはって配架されています。A5版133頁。



お知らせ

○ S S I E 米国研究案内ファイルの追加について

J O I S オンライン検索サービスに上記のファイルが追加されました。Smithsonian Science Information Inc., (米国) が提供するものです。研究を実施または援助する米国国内の、約 1,300 の公的および私的機関から S S I E に任意に提供された進行中および計画中の研究課題情報です。

対象分野と対象年度

1978 年分から検索可能で生命科学、自然科学、社会科学および工学の分野を対象とします。

検索利用料と利用可能曜日

毎週 火・金曜日 10:00～16:00 (12:00～13:00 を除く)
 ファイル利用料 180円/分
 オフライン回答料 500円/回+15円/件



館外貸出冊数

亥 鼻 分 館 利 用 状 況

昭和54年4月～9月

貸出冊数	医 学 部			附 属 病 院			看 護 学 部			活 性 研			其 他 の学部	合 計
	学生	教職員	計	教職員	附 属	計	学生	教職員	計	学生	教職員	計		
平 時(開館日数 151日)	1,647	329	1,976	185	305	490	1,049	110	1,159	2	50	52	293	3,970
時 間 外(開館日数 109日)	989	57	1,046	82	222	304	608	7	615	0	5	5	109	2,079
合 計	2,636	386	3,022	267	527	794	1,657	117	1,774	2	55	57	402	6,049

※学生、学部学生及び大学院生、研究生を含む

亥 鼻 分 館 運 営 委 員 会

第 5 回 6 月 14 日 (木)

議 題 (1)共通基本図書について (2)昭和54年度学生用図書購読希望調査について
 報告事項 (1)生物活性研究所に配架されている図書の利用について

第 6 回 8 月 9 日 (木)

議 題 (1)昭和55年度外国雑誌購読申し込みについて
 (2)昭和54年度共通基本図書の選定について
 報告事項 (1)本館、分館長会議について (2)亥鼻地区部局長連絡会について

第 7 回 9 月 13 日 (木)

議 題 (1)昭和54年度共通基本図書の選定について
 報告事項 (1)亥鼻分館移転について(書庫)

編 集 後 記 賄所(旧同仁会)が動物実験センターとして建て直されるため、同会内仮書庫の移転を余儀なくされている。移転先として医学部基礎系が旧病院へ移った後基礎棟を書庫として使う計画が進められている。もともと書庫としての建物でないため耐荷重等の制約から不自由さは免れず、あくまで過渡的暫定措置と考えている。利用者の負担を最小限にするためには、絵にかいた明日ではなく現実を見定め最良の配置にしなければと思う。しかし一方では、“無駄口をたたかず、きかれもしないのにずけずけ出しやばらない。”(チェーホフ)を戒めにしながらも新館建設に向けての夢を語り始める時期にきている。

軒下に忘れられた風鈴は、やわらかな光と風の中、珠夏への挽歌をうたい暦は白秋。影の長さとも薄くなった日めくりには戸惑いがちな頃。(い)

千葉大学附属図書館亥鼻分館
 千葉市亥鼻1～8～1

昭和54年10月25日
 電話0472(22)7171

亥鼻分館 ニュース

No. 6 1980. 3

千葉大学附属図書館亥鼻分館報

旧佐倉順天堂所蔵の医書について

第一生化学教授 三浦義彰

順天堂医院の開祖である佐藤泰然は天保十三年に江戸から時の老中であった堀田侯の城下町佐倉に移って順天堂という医院兼医学校をつくった。しかし翌天保十四年には堀田侯は老中を辞職している。しかし殿様が幕閣の重要ポストにしようといまいと一旦隆盛になった佐倉の洋学は幕末まで続くのである。

順天堂の本院は新政府の始まりとともに東京へ移ってしまったが、幕末までに集められた書籍の多くは佐倉順天堂に残されたのである。私が昭和十五年頃佐倉順天堂を訪れた頃はまだまだ珍しい本の宝庫であった。しかし間もなくこの本は売りに出されたのである。

千葉大学の医学部は第二次大戦中図書館で洋書を買うことが出来なくなったので眼科の伊東教授の熱心なおすすめがあって、この洋書を買う予算で佐倉順天堂の医書を買ったのである。その縁故があるのでいまでも眼科の教室には幕末の名医ファン・メーデルホルトの署名のある眼科の教科書をはじめ多数の貴重な洋書が所蔵されている。

一方和書の方は当時の医学部図書館（今の亥鼻分館）に所蔵されていたが、手狭になったため一時西千葉の本館に依託された。その内容は日本古来の医書もあるし、幕末に上海で中国語に翻訳された西洋の医書をさらに日本で印刷したものもあって多彩である。

佐倉順天堂の蔵書のうち医書以外の書物は現在大部分が佐倉高校の図書室に収蔵されている。幕末に医学を修めようとした人達は必ずしも医学書ばかりを読んだわけではなく、西欧の基礎科学の書物をひろく読んだものである。それゆえ佐倉高校所蔵の旧順天堂の書物は千葉県の上では重要な文化財となっている。

さて現に西千葉の図書館にあづけられている旧順天堂所蔵本は東洋医学研究会の会員によって研究調査がすすめられていることは本号のその報告に明らかであるが、そのうちでも最も珍しいものは二・三の絵巻物であろう。たとえば解体新書の発行される以前に画かれた解剖図などは重要文化財クラスのもので、日本に三巻しかないといわれている。また南蛮外科の処置法を図説した絵巻物なども珍しいもののひとつであろう。

これらの書物の保存状態は必ずしもよいとはいえず修理を要するものが多い。しかしこのような書物の補修は専門家を必要とし、しかも時間がかかるためと莫大な費用を要するためになかなか手が付かない現状である。研究棟が完成し、亥鼻分館の書庫の整理がすんだ暁には西千葉の図書館本館からこれらの書物を返して頂くだけでなく、その一部は常時展観できるようにしたいと考えている。歴史の古い大学はそれぞれ大学の宝というような書物や資料を持っているが、千葉大学は歴史が新しいので、せめてこのような書物を大学の宝物として保存する必要があるだろう。

東医研古医書整理中間報告

学2 石津谷 義 昭

1、初めに 去年の4月に西千葉の図書館にて開始した東医研古書整理の作業も、ほぼ一年を経るに至り、予定した仕事の8割方を終えることができ、何とか中間報告を出せる状態に到った。ここに“亥鼻分館ニュース”の紙面をお借りして、若干の報告をさせて頂く。

2、東医研古医書の歴史およびその内容

我々が現在整理を進めている古医書群の歴史は、そもそも、東洋医学研究会の初代顧問であられた本学眼科教授・伊東弥恵治博士が医史学の研究に役立てる目的で大正末年より眼科古書の収集を始めた事に源を発する。以後、教授の古書収集は昭和20年代まで続けられ、その間、当時眼科講師の鈴木宜民氏の協力もあって、数多の東洋医学関係古書が眼科東洋医学研究室に搬入された。また、敗戦直後には千葉県長生郡茂原の眼科医・千葉彌治馬氏より一千余冊の、昭和25年には佐倉順天堂の佐藤恒二博士より数百冊の、古書寄贈が行なわれ、最終的には数千冊の古医書が研究室を埋め尽くすことになったのであった。

これらの古書群は、それだけですでに近世医史学に関する一大文庫を成しており、ここには平安時代の稀覯本などは無いかわりに、日本古来の漢方に蘭方、その他が加わり日本の医学全体が大きく揺れ動いた江戸時代後期の刊行本並びに写本が豊富に揃っている。(その中には解体新書以前に描かれた解剖図や江戸時代の稀書など多くの貴重本があり、また、洋書としては貴重な眼科書が数十冊含まれている。)

3、整理事業の実際

「これ以上本を消失させないこと」——これが今回の古書整理に於ける基本方針である。我々が、西千葉で初めてこれらの古書と出会った時、その保存状態はお世辞にも良いものとは言えなかった。図書室では、虫の方が我々より先に勉強していて本は傷だらけ(穴だらけ)の状態であったし、本の中には対応する図書カードのみを残して行方不明になっているものも僅かながら見られた。(事実、現段階に於て数十冊の行方不明本が list-up されている。)

このような状態を踏まえて、我々は図書館本館・分館・人文学部教授の方々とは今後の方針について話し合い、結局、かつて作成された図書カードと実際の書物との照合と、虫等による本の被害状況の調査とを同時に行ってゆくという結論に達し、今もその線に沿って作業を進めているところである。(実際の方法論については紙面の都合上割愛させて頂く。)

現時点で照合の終了したカードは約 1,700枚で、これらについては現在、東医研の総力を挙げて新しくカードを作り直している最中である。一方、虫喰い調査の方もカード相当数だけの資料を得る事が出来、目下集計中であるが、早急に修理を要する本が続出し、改めて虫害の酷さに驚いている次第である。

4、今後の事について

今回の作業は、虫喰い対策の基本資料作りと図書目録作りとを最終目標にして行っている。前述の如く、これらの古書は近世医史学上、東洋医学研究上、重要な図書であるので一刻もはやく目録化を行い、十分な管理体制を作り上げ、かつ閲覧に耐えるだけの修理を施して整

備したいと我々は願っているのであるが、これはすでに学生の力の及ぶ範囲ではなく、如何ともし難い。惜越ながら、是非、大学を挙げてこの貴重な文庫の維持・保存に御尽力頂きたいと切に願うものである。

5、終りに 今、振り返ってみると、学2が4人と薬学部1年生数人とでよくここまでやって来られたものだと我ながら感心する。最近、残りの仕事は速く終らせたいという気もするが、冷静にこの仕事の重要性を考える時、決してそのような事が許されるはずもなく、決意も新たに次の仕事の準備を現在進めている次第である。

文末ながら様々な助言をして下さった図書館の皆様、三浦教授（一生化）、いつも御迷惑ばかりおかけしている顧問の熊谷教授（二内）には厚く御礼を申し上げます。

(図書館註) 現在、西千葉の本館に預かっているこれらの蔵書も、昭和55年度には亥鼻分館に移せそうです。その折には、御意見に従い除湿機のある部屋に入れる等、貴重本の管理保存に気を配りたいと考えています。

投書箱から

ご意見

○視聴覚教材の購入を希望します。

スライド、カセットテープ、テキスト、ビデオテープなどで、できれば英語のものも。また、機器があればあいた時間にいつでも利用できて便利だと思います。アメリカなどではすでにとり入れられて久しいとききました。ぜひ検討していただきたいと思います。(学2 太田順子)

お答え

○ご意見ありがとうございます。さっそく検討しました結果、ビデオテープの購入が決まりました。図書館としても、ぜひそろえたいと思っていたものの一つでしたが、適当な視聴覚室(スペース)がなかったことと予算のことも考えなければなりません。今年度は予算の面は何とかなりそうとのことで購入にふみきることになりました。適当な場所がありませんので、さしあたり書庫の一角に置いて利用することになりました。基礎系研究室の移転後は、校舎に若干のスペースができますのでもう少しゆとりのある場所を考えたいと思っています。ビデオコーダ2台とテープを購入します。現在、医学および看護学のテープは相当数発刊されていますがその選定については、各学部の先生方と相談し決定していく、というように考えています。閲覧は4月になるとと思いますが、その折にはどうぞ充分に御利用下さい。

みなさんの意見によって図書館も少しずつ改善されていきます。忌憚のない御意見をお待ちします。



巻a miry

学生用図書について

53年4月亥鼻分館が発足してほぼ2年が経過したが、その間「学生用図書」がどのように購入されたか、また、今後どのように購入していくかについて考えてみたい。

この予算は、「学生用図書購入費」というもので、学生・院生を対象とした図書が主として購入される図書館独自の少ないけれど貴重な図書費の一つである。ちなみに閲覧室に配架されている和・洋雑誌のほとんどは亥鼻地区の部局にその購入費用を負担していただいているものである。

本学に配分されたこの予算は、学部数・学生数等を勘案して西千葉・亥鼻・松戸の3地区に再配分され実際に単行書が購入されることとなる。53年度は亥鼻地区全体で約418万円が配分され54年度は同じく約548万円が配分されて現在購入している。館員は少ない、予算も少ない、閲覧席も書庫も足りない……という現状の図書館で最も増えたものの一つではないだろうか。

では図書の選定は、どのようにされているかについて述べたい。医学部では学部図書委員会が中心となって購入希望リストをまとめている。学部学生用と院生用とに区分して、学部学生用は学生の希望が充分にとり上げられているが、53年度には美術全集の希望について話し合いの上、削除したことがある。院生用については各講座の先生方の助言をうけてまとめている。看護学部でも学部図書委員会が中心となってまとめているが、54年度は修士課程が設置されたことから院生の希望をとり上げるよう配慮されている。なお、医学部附属学校生に対する図書については分館として配慮していくつもりである。

亥鼻分館では、学部からはなれて蔵書整備のため学部からの希望と重複しないことを原則に、亥鼻地区の蔵書構成・境界領域への留意をしながら購入している。53年度には医史学関係の古典についても多少購入した。選定に際しては、Morton: Use of Medical Literature, 1977., 専門課程授業要項の他、各書店の新刊案内等を参考にしている。教官・学生等利用者側のアドバイスも参考にさせていただいている。

54年11月26日～12月8日までご協力いただいた利用実態調査の際のご希望についてふれたい。

①教科書・参考書の部数をふやしてほしい。

原則として1冊としていますが、学部図書委員から副本購入の希望があれば購入している。

53年度にも数点あった。関連して改訂版はなるべく早く購入してとの希望もあったが、出来るだけ心掛けるようにするつもりである。

②生活に必要な本(時刻表・地図・一般教養書)について

亥鼻分館は生物医学情報図書館を指向する研究図書館として整備・充実を計るべく努力しているところなので、ご希望の図書は必要最低限にしたいと考えている。一般教養書は必要ないとは思えないがなるべく西千葉の附属図書館を利用してほしいと思っている。

③附属学校生の希望について

学生用図書購入費の配分対象外であるという問題がありますが、図書館として充分留意してきたつもりですが、附属学校等の先生方にも学生用図書については格段のご配慮をいただきたいと思えます。

最後にこれからの学生用図書に関する図書館の考えについてふれておきたい。亥鼻分館が独自に選定する予算の範囲内で、図書館選定分単行書・教養雑誌・二次資料・学生希望単行書に大別して図書を購入していく予定である。特に学生の個人的希望については今迄は予算の都合で、その

都度検討できなかったので、窓口でも満足のいく回答を得られなかったと思うが、55年度以降は迅速な対応をすることとしたい。そのためにも限られた予算のうち一定の枠を学生希望単行書として確保し購入の是非を出来るだけ早く回答することとしたい。

以上学生用図書について述べたが、図書館の蔵書等についてご意見があったら、入口横の投書箱に遠慮なくお寄せくださるようお願いする次第である。

(整理係長 岩 沢 明)

54 昭和54年度 学生用図書購入リスト

QS (人体解剖学)

- (1) Handbuch der Mikroskopischen Anatomie des Menschen. Bd. 2, Teil 5.
 (2) Ciba Collection of Medical Illustrations. Vol. 7
 (3) Gross Anatomy Dissector. R.S. Snell.
 (4) 行動の胎生学 A. Gesell.
 (5) 臨床寄生虫学 大鶴 正満編

QT (生理学)

- (6) 臨床生理学 上, 下巻 鈴木・星
 (7) Handbook of physiology. Sect.1. Vol.1 pt.1, 2

QU (生化学)

- (8) 生化学 上, 下 L. Stryer.
 (9) 生化学実験講座 1-1 他11冊
 (10) Collagen in the physiology and Pathology of Connective Tissue. S. Gay & E.J.Miller

QV (薬理学)

- (11) 発生薬理学 江崎節郎, 萩原弥四郎編
 (12) 向精神薬の使い方 谷何弘, 乾正共著
 (13) Catecholamines and Behavior. Vol. 1, 2.

QW (細菌学および免疫学)

- (14) General Virology. S.E. Luria.
 (15) The Epstein-Barr Virus. M.A. Epstein.
 (16) 免疫病理学的疾患 岡林 篤編

QY (臨床病理学)

- (17) 臨床検査法提要 金井泉, 金井正光編
 (18) 血液の病態生化学 高久史磨, 水上茂樹編

QZ (病理学)

- (19) 新病理学 総論, 各論 武田 勝男
 (20) 図説マクロ病理学 W. Sandritter
 (21) 図説基礎病理学 赤井契一郎, 松尾英著
 (22) Pathologic Basis of Disease. L. Stanley
 (23) Recent Results in Cancer Research. Lingeman

W (医薬)

- (24) 南山堂 医学大辞典 (縮刷版)
 (25) 英独和対照医学辞典
 (26) 精神医学行動科学略語辞典
 (27) Melloni's Illustrated Medical Dictionary.

WA (公衆衛生)

- (28) 講座 現代と健康 1~10
 (29) 予防接種ハンドブック
 (30) 環境大気汚染研究のための「吸入実験」
 (31) 都市環境と住まいの心理学 吉田 正昭編

WB (臨床医学)

- (32) 内科書 上, 中, 下巻 沖中 重雄編
 (33) 新内科学大系 2A 他 55冊

- (34) 図説臨床内科講座 8 山村 雄一
 (35) 内科学 上田英雄, 武内重五郎編
 (36) 内科シリーズ No.9 一腎炎のすべて—
 (37) クリニカル・エンジニアリング 上, 下 Jacobson.
 (38) 超音波医学 —基礎から臨床まで—
 (39) 図解高カロリー輸液 —安全な中心静脈栄養法—
 (40) リハビリテーション技術全書 服部 一郎
 (41) Harrison's Principles of Internal Medicine.
 (42) International Classification of Diseases.
 (43) Health Assessment.
 (44) Total Parenteral Nutrition. J.E. Fischer.

WC (感染症)

- (45) Parasitic Zoonoses. E.J.L. Soulsby.

WE (筋肉骨系)

- (46) 新整形外科学 (上)

WF (呼吸器系)

- (47) 肺の構造と機能 R.G. Fraser.
 (48) 臨床呼吸器講座 第1巻 滝島 任等編
 (49) Physiology of Respiration J.H. Comroe.
 (50) Applied Respiratory Physiology. J.F. Nunn.

WH (血液およびリンパ系)

- (51) Lymphocyte Differentiation, Recognition and Regulation. D.H. Katz.

WI (胃腸系)

- (52) The Hepatobiliary System. Taylor.

WJ (泌尿生殖器系)

- (53) シベール泌尿器科学 J. Cibert.
 (54) Cambell's Urology. Vol. 1~3

WK (内分泌系)

- (55) 糖尿病をめぐる L.P. Krall.
 (56) Clinical Endocrine Pathology. Davis
 (57) Geriatric Endocrinology. R. Greenblatt.
 (58) Gut Hormones S.R. Bloom

WL (神経系)

- (59) 神経症候学 平山 恵造
 (60) 脳神経外科学 半田 肇
 (61) Neuro-sciences Forth Study Program.
 (62) Scientific Approaches to Clinical Neurology.
 (63) From Neuron to Brain. Kuffler
 (64) Handbook of Sensory Physiology. Vol. 9
 (65) Fundamentals of Sensory Physiology. Schmidt.

WM (精神医学)

- (66) 精神医学の神話 T・サズ.

- (67) 神経病学 祖父江 逸郎等編
 (68) 精神科のリハビリテーション 吉川 武彦
 (69) 分裂病の精神病理 4 荻野 恒一編
- WN (放射線医学)**
 (70) Nuclear Medicine in Clinical Practice.
- WO (外科学)**
 (71) 新臨床外科全書 8-腸・肛門の外科
 (72) 新外科学 1-3 西村, 陣内編
 (73) 現代外科手術学大系 13-A, B
 (74) 麻酔学 竹島 登
 (75) 凶解手術室での消毒の実際 実川佐太郎
 (76) 救急処置ハンドブック 藤田 五郎
 (77) 救急治療の手引き 杉本 侃編
 (78) 救急看護 藤田 五郎
- WP (婦人科学)**
 (79) 図説臨床産婦人科講座 28, 30.
 (80) 総合産科婦人科学
- WQ (産科学)**
 (81) マイルズ助産婦マニュアル
- WR (皮膚科学)**
 (82) 現代皮膚科学大系 2 A
 (83) Textbook of Dermatology. Vol. 1, 2
- WS (小児科学)**
 (84) 臨床小児外科全書 1-3
 (85) 発達心理学 田中 敬二
 (86) 発達心理学 玉井 取介
 (87) 乳幼児栄養学 松尾正, 守田哲郎
 (88) 乳幼児栄養の実際 中山健太郎
 (89) カラー図説 発疹症
 (90) 1才6ヶ月児健康検査の手びき
 (91) Atlas of Pediatric Diseases.
 (92) Child Abuse A.W. Frandlin.
- WT (老人医学、慢性疾患)**
 (93) 老人医療福祉論 田中 多聞
- WY (看護)**
 (94) 患者ケアの臨床心理 一人間発達学的アプローチ—
 (95) 現代看護学・看護全書 1-10
 (96) 看護の原理と実際 1, 4, 5, 別巻
 (97) 病気と患者の行動
 (98) 看護計画の系統的アプローチ M.G. Mayers.
 (99) 死ぬ瞬間の対話 E・キューブラー・ロス
 (100) 日本看護関係文献集 第3巻
 (101) I.C.U. 重症患者の看護と治療
 (102) 精神医学と看護症例を通して
 (103) 死にゆく人々のケア— 柏木 哲夫
 (104) 精神科看護事例集
 (105) 外科的諸問題をもった患者の看護
 (106) がん看護 —その総合的アプローチ—
 (107) がん患者の心 —世話をする人々への指針—
 (108) 脳神経外科チームのための患者管理の実際
- WZ (医学史)**
 (109) 富士川遊 著作集 3
- NDC (非医学書)**
 (110) 薬学情報科学概論 第2版
 (111) ロージャズ全集 1-4
 (112) グループワーク教室
 (113) ワークブック社会福祉 —質問と解答—
 (114) 社会福祉事業関係法令通知集
 (115) 日本のボランティア —福祉社会への出発点—
 (116) 才能の発見
 (117) 理科年表 昭和55年
 (118) 新実験化学講座 2巻~他 34冊
 (119) Cell Membranes G. Weissmann

報告 文献探索ガイダンス

—— 学術情報と文献探索 ——

亥鼻分館会議室にて
2月12日(火)

昨年6月、学4の学生に「文献探索ガイダンスのための(予備調査)アンケート」を配布し協力を求めた。その結果をもとに、索引誌・抄録誌等の利用の仕方についてのガイダンスを企画した。当日は、学4の卒業試験の最終日であったが、テストが午前中ということなので午後に予定した。その日は午後にも2つほど他の集まりがあったとのこと(企画した時にはつかめていなかった。)と、目前に国家試験をひかえていることで文献探索に対する関心の度もやや低くなっている時期ということもあって3名の参加にとどまった。私達は2名以上集まったら実行するつもりでいたので3名の参加に喜びガイダンスを始めた。内容は、総論的に情報の要求、情報を得るためのソース、情報の生産と加工と進めた。さらに各論として、個々の索引誌・抄録誌について、実物を前に説明を行ない、次いで、目次速報、主題別文献書誌、総説誌、会議資料について語り最後に文献(原報)の入手という話で終わった。話し手の方が初めてのことで、うまく言葉が流れず聞きにくい説明であったと思う。しかし参加された方は途中わかりにくい所では質問をしたりして熱心に最後まで聞いてくれた。説明の終わった後では、今後のこういうガイダンスの時期についての意見もいただき私達の方が教えられて終わった。(文責 五十嵐)

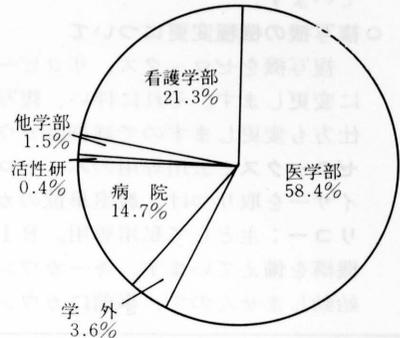
利用調査集計結果について

実施期間：昭和54年11月26日～12月8日

○入館状況

	(月～金)	(土)	
第1週目	1,237	159	= 1,396人
第2週目	1,163	132	= 1,295人
(計)	(2,400)	(291)	= (2,691人)
一日平均	月～金：210人	土：146人	
	・回収枚数 2,555枚(約95%)		

(部局別入館者割合)



○御意見・ご希望(集約したもの)

- ・閲覧室がせまい等を初めとする施設・設備について。
- ・職員の勤務態度(私語が多い等)について。
- ・図書館に資料が少ない。

[改善したこと]

- ・ロビー等の照明が暗い……図書館でも改修要求中で予算がついたので早速改善した。
- ・職員の態度、電話のベルがうるさい。……ベルの音を低くし、早速カウンター当番に注意した。

○調査期間中閲覧室でよく利用された雑誌

和文誌	欧文誌
1、日本臨床	1. Journal of Biological Chemistry.
2、日本内科学会誌	2. Nature.
3、臨床と研究	3. New England Journal of Medicine.
4、内科	4. Proceedings of the National Academy of Sciences of the U.S.A.
5、Medicina	5. Lancet.
6、診断と治療	6. Science.
7、最新医学	7. Annals of Internal Medicine.
8、日本医事新報	8. European Journal of Biochemistry.
9、看護技術	9. American Journal of Medicine.
10、看護学雑誌	10. Journal of American Medical Association.
	10. Brain Research.

○入館者数 (2週合計)

医学部	教職員	268
	院生・研究生	195
	学生	1,019
	(小計)	(1,482)
病院	教職員	74
	医員	195
	附属校生	103
	(小計)	(372)
看護学部	教職員	33
	院生・研究生	50
	学生	458
	(小計)	(541)
活性研	教職員	8
	院生・研究生	2
	(小計)	(10)
学内他学部		39
学外		92
合計		2,536*

* 回答のあった数

小さなまとめ：昨年度も1週間かけて利用調査を行なったが、今回は2週間連続でしかも入口の前に机を出して調査票を配った。図書館を日頃よく利用される方にとって、2週間連日調査票をもらうことはわずらわしいことだったろうと思う。その中で調査票の裏面に書いて下さった意見については、生のままの声としてのせよと思ったが、多くの意見が寄せられたため転載できなかった。やむをえず上記のようにまとめてしまったが、私達は一人一人の声を大切にとらえていきたいと思っています。これらは、また将来の新館に向けて図書館の運営を考えていく上でも大切な実態調査資料となりました。とにかくも利用者の協力で何とか2週間をやり終え、その結果をここに報告しました。その節はどうもありがとうございました。

お知らせ

○閲覧室の模様替えについて

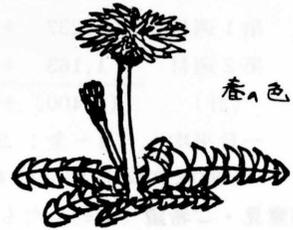
突然の休館でご迷惑をおかけしましたが1階閲覧室に書架をふやしました。単行本のところ、製本洋雑誌の附近が少し動いています。

○複写機の機種変更について

複写機をゼロックス、リコピー共に4月1日を期して新機種に変更します。それに伴い、複写申込の手続、メーター記録の仕方も変更しますので詳細はカウンター係員へお尋ね下さい。

ゼロックス：公用専用のみ　ゼロックス3500-2台にコピーライザーを取りつけ、教室単位のカード方式を採用します。

リコー：主として私用専用。R I C O P Y　D T 1800 Rで縮小機構を備えています。キーカウンターを差しこまない機械が始動しませんので、事前にカウンターへお申込み下さい。



亥鼻分館運営委員会報告

第8回　10月11日（木）

報告事項　（1）附属図書館運営委員会について　（2）共通基本図書選定委員会について
（3）亥鼻地区部局長連絡会について

第9回　11月8日（木）

報告事項　（1）第3回附属図書館運営委員会について（2）昭和54年度学生用図書購入費（第一次分）について　（3）昭和54年度外国雑誌購入費について
（4）亥鼻地区統合整備委員会について（5）昭和54年度上半期亥鼻分館の利用状況について

第10回　12月13日（木）

報告事項　（1）昭和55年コンテンツサービスについて（2）年末年始の休館等について

第1回　1月17日（木）

報告事項　（1）亥鼻分館利用調査の結果について　（2）1980年コンテンツサービスの申し込み結果について

第2回　2月14日（木）

報告事項　（1）館長・分館長会議について　（2）亥鼻地区統合整備委員会について
（3）臨時休館について　（4）文献探索ガイダンスの実施について

編集後記　今回は現在本館にある東洋医学関係古医書の整理がひとつの段階を終えそうとのことで東医研の方に中間報告をお願いした。また古医書のことに詳しい三浦教授には千葉大学所蔵の古医書について原稿をお願いしたところ心よくひき受けて下さった。多謝。

暖かな冬だった。シェリイの『西風に寄せる歌』を胸にコートの衿を合わせ、北風に向かう日もなく春のいぶきが心を解き放つ。「…暖かい風が吹く前に重いコートは脱ぎすてなければ…」（アリス『秋止符』）の頃に1階の閲覧室も模様替えをする。この作業が終わりほっとする間もなく開館すると、医学部・看護学部・附属校生に新しい利用者を迎え、分館の3年目が始まる。（い）

千葉大学附属図書館亥鼻分館
千葉市亥鼻1～8～1

昭和55年3月25日
電話0472(22)7171

亥鼻分館 ニュース

No.7 1980. 11

千葉大学附属図書館亥鼻分館報

亥鼻分館の新たな建設を

——新しい教育・研究図書館を目指して——

看護学部 須永 清

昭和50年秋、当時の千葉大学附属図書館長石田教授（理学部）が田辺事務部長を伴って、その年の春に創設されたばかりの看護学部が仮住いしていた医学部記念講堂にその長身な姿を見せ、“生物医学情報図書館構想”について話されたのを昨日のこのように思い出します。

当時、亥鼻キャンパスに看護学部が誕生し、続いて、生物活性研究所の亥鼻団地への移転が予定されており、一団地一図書館という基本方針のもとに、好むと好まざるとにかかわらず医学部分館と生物活性研究所分館とは統合改組され、自動的に複合分館が設置されることになっていました。

そこで、この機会をとらえて石田館長は、この“新図書館構想”を盛り込んでとは考えられたのだと思います。

これは、千葉大学購入洋雑誌の半分以上は生物医学関係の図書であるので、これをこの図書館に集めて本格的な研究図書館としてはどうか、特に、研究図書館として生物医学関係の年々増大する情報量及びその情報伝達のスピード要求に対処するには、もはや「図書の館」としてだ

けではなく、内外に対する情報流通体制を完備した情報センター（Biomedical Information Center）としての機能を付加した図書館を作ってみてはどのことであったように思います。このことは、続いて評議会第三小委員会にかけられ、翌年1月には素案がまとめられるという、早くから全学的な将来構想の中に組み入れられたことも、亥鼻分館のこの方面の将来を約束するものとして意義は大変大きかったと思われる。

しかし、これに対する関係部局の受け入れ体勢は、必ずしも整っていたとは言えなかったように思います。

当時、この亥鼻分館の中核となるべき医学部分館は、蔵書16万冊中5万冊を配架、閲覧に供するにすぎず、研究図書11万冊は各講座に分散という状態でした。そこで当時の大谷分館長を中心に、まず82種（300万円相当）に及ぶ重複図書の中央化が進められました。さらに、臨床講座の新病院への移転に伴う図書スペースの確保の困難さは、この図書中央化の動きに拍車をかけていました。しかし他方では、まだ図書は出

来るだけ手元という状況で、しかも、図書中央化の大前提となる分館の増築は全く見込みはなく、その動きもにぶりがちでした。

これに対して、生物活性研究所では、早くから研究図書の中央化が進められており、あとは医学部との重複図書46種（90万円相当）の調整と亥鼻分館への移管を待つばかりでした。

一方、看護学部は、独自の図書分館（室）を持つことを認められずに出発した創設時から、まず学生のための教育用専門図書の充実と、十分な利用スペースを持つ教育（学習）図書の確保が先決と考えていました。そこで、さきの構想が強く前面に出されることは、余程十分の予算とスペースが用意されねば、かえって教育図書館としての機能は低下するのではとの一抹の危惧を抱いていました。

当時の医学部分館は、昭和46年3月新営された1,128㎡（基準面積の約53%）のみで、主として書庫部分約1,000㎡は未完成のままでした。これに看護学部と生物活性研究所が加わると、約1,000㎡の基準面積の不足となります。このような状況から、閲覧席など利用スペースに充てられるはずのところが仮書庫として使われ、利用者のための座席数は52席にすぎませんでした。

研究図書館としては、書庫の他に文献検索、複写、送付、伝達等の機能があれば、利用スペースはあまり問題でないかも知れませんが、教育図書館としては、ゆったりとした空間でソファにでも座って、さまざまな素晴らしい装丁の本に直接手にふれ、ページをめくり、あるいは目を閉じてさまざまな思索にふける所に意義があるので、これ以上利用スペースの圧縮を認めるわけにはいかない状況でした。しかし、石田館長、田辺事務部長は、中央との交渉の感触か

ら、単純複合では新築はおろか増築も不可能で、むしろ新図書館を標榜したほうが新営が可能になると判断したものと思われます。また、一方では、当時、そのスペースとして旧病院利用が現実に可能であったこともこの図書館誕生の可能性を大きくしていました。

しかし、状況は急速に変化し、旧病院の利用が不可能になるに伴って、結果は御覧の通りで、必要面積はおろか、わずかの増築も認められず出発せざるを得ませんでした。このため、萩原分館長が“本格的な研究図書館を目指しながら、とりあえず亥鼻地区四部局の複合分館として発足した。……直ちに別の図書館になるわけにはいきません。”と、このニュースの第1号に述べておられますが、その調整の苦しみがにじみ出ているように思います。しかしこのような悪条件にもかかわらず、多くの日常サービスはほとんど変わらず、むしろ向上しているというのは驚きであり、これも一重に分館長、事務長はじめ館員の方々の努力のおかげと感謝の念で一杯です。特に、その創設期の看護学部に示して下さった御好意は忘れることが出来ません。

亥鼻地区の総合的な整備が着々と進められつつある現在、状況の変化や図書館への理解の深まりなどから、初期に見られた図書の中央化に対する障害は次第に取り除かれつつあり、今は、十分なスペースを持ち、機能を果たし得る図書館を待つばかりになったようです。それもただ閲覧席や書庫が増えればというのではなく、分館長がいわれた“とりあえず”という時代を早く終らせ、教育面も含んだ新しい研究図書館の新営を待望して止みません。

（元 附属図書館亥鼻分館運営委員）

分館の利用、着実に増える

増加率 { 館外貸出 23%
JOIS利用回数 25%

—昭和54年度利用状況報告から—

昭和54年度における分館利用状況は、図書の館外貸出冊数が総計で10,786冊（前年度比22.8%増、以下（ ）内は前年度比）、文献複写は15,309件（3%増）、JOIS使用回数218（25%増）となっている。

部局別にこの内訳を見ると、館外貸出冊数では医学部が5,057冊でほぼ半数を占め、文献複写件数、JOIS利用回数とも70%となっている。

次いで多いのは、貸出冊数では看護学部が3,531冊（32%）、文献複写では附属病院の1,003件（6.5%）、JOIS利用回数では生物活性研究所の28回（12.8%）となっている。

54年11月下旬から12月上旬にかけての2週間に行った利用状況調査では、1日の入館者は、週日で200人、土曜日は150人であった。

昭和54年度亥鼻分館利用状況

(昭54.4.1~55.3.31)

1 館外貸出冊数

区分	医学部	附属病院	看護学部	生物活性研究所	亥鼻地区外の学部	計
貸出冊数	5,057	1,478	3,531	90	630	10,786
前年度比 53年度=100	118	101	161	69	90	123

2 文献複写件数

区分	医学部	附属病院	看護学部	生物活性研究所	亥鼻地区外の学部	学外	計
受 公用	9,342	250	75	213	257	721	10,858
託 私用	652	132	319	2	129	1,611	2,845
依 公用	138	20	1	159	—	—	318
頼 私用	596	601	12	79	—	—	1,288
計	10,728	1,003	407	453	386	2,332	15,309

3 コンテンツサービス

申し込み教室数 69 延ベタイトル数 461 複写枚数 12,469枚

4 JOIS 利用状況

区分	医学部	附属病院	看護学部	生物活性研究所	亥鼻地区外の学部	計
使用回数	179	3	—	28	8	218
延時間(分)	1,782	17	—	272	103	2,174

注 表作成の都合上、「2 文献複写」の公用、及び「4 JOIS 利用状況」の附属病院は、次に掲げる部(室)、学校等である。

小児外科、検査部、手術部、放射線部、医療情報部、薬剤部、理学療法部、人工腎臓部、救急部、フォトセンター、看護学校、助産婦校、放技校、放射線同位元素研究室

昭和55年度 学生用図書

(その1)

タッチマン-デュプレシス, H. 永野 [等] 訳
人体発生学カラーアトラス
Vol. 1, 1, 2, 3 (2部)
現代医療編集委員会 プロスタグランジンの基礎と臨床
ドール, W. 慶応大・病理学教室訳 病理学図譜
米国科学アカデミー 桜井 [等] 訳 環境汚染物質
の生体への影響
井上 俊 [等] 必修衛生公衆衛生学 (2部)
市岡, 中浜, 山村 痛み-基礎と臨床
山口 富雄 臨床寄生虫学カラーアトラス
矢田 昭一 基礎法医学
井上 [等] 編 標準整形外科学
庄司 義治 眼病図譜
須藤, 日岩, 北村 耳鼻咽喉科学
奥田 六郎 小児科学
山村 秀夫 臨床麻酔学者 上・下
大谷 藤郎 21世紀健康への展望
山本 清 ホルモンと糖質の代謝
本田 良行 酸、塩基平衡の基礎と臨床 (基礎編)

ホワイト, A. 鈴木 [等] 訳 生化学 1・2
モンゴメリー, R. 小林 [等] 訳 臨床例にみる生化学 1・2
香川 靖雄 生体膜
日本看護協会看護婦部会 看護観の確立をめざして
日本看護協会看護婦部会 保健婦業務指針
日本看護協会看護婦部会 保健婦業務要覧
幡井 ぎん [等] 看護記録
大段 智亮 わたしの助力論
大段 智亮 続わたしの助力論
バイヤース, V. B. 前原澄子訳 看護観察
川村, 木下 難病患者の在宅ケア
河合, 佐治 臨床心理ケース研究

[集中治療医学講座]

- 1 急性心筋梗塞の治療
- 2 持続陽圧呼吸の諸問題
- 3 ICU・CCUの患者看護記録

奥田 正治 膠原病・リウマチ性疾患の臨床
保崎 秀夫 老化のプロセスと精神障害

梅田, 立川 慢性閉塞性呼吸器疾患とその治療
阿部 正和 臨床生理学
松村 博雄 性教育学入門
唐沢, 入内島 妊婦管理
唐沢, 入内島 分娩管理
川畑 愛義 学校病を中心とした保健管理
大西 積守 健康生活の実践
名尾 良憲 治療による副作用とその対策
村上 仁 [等] 精神医学 (3版)
井村 和清 飛鳥へ, そしてまだ見ぬ子へ
徳田 虎雄 生命だけは平等だ
フロイト, J. 人間科学の諸理論
中村, 古田 編 岩波講座哲学 科学の方法
植竹 久雄 編 ウイルス学
植竹 久雄 編 基礎病理学 I・II
Harris, C. H. S. 杉浦昭訳 インフルエンザ
山本 幹雄 エッセンシャル衛生・公衆衛生学
榊田 博 保健理論序説
上村 桂 [等] 医統計学
後藤 由夫 糖尿病性網膜症
石川 中 編 心身医学
大谷 藤郎 21世紀健康への展望
園田 恭一 現代コミュニティ論
ロワイヨーマン人間科学研究センター編 基礎人間学 上・下
宮本 忍 医学思想史 I~III
丸山 清康 訳 全訳 傷寒論
シュエテリヒ, H. J. 菅井準一 [等] 訳 西洋科学史 I~V
平井 富雄 心の危機をみつめて
山下 清 裸の大將放浪記 全4巻
平井朝子 [等] 編 高血圧患者の看護
母子衛生研究会編 産褥・乳児生活指導
磯崎 辰治郎 医事法・衛生法 (法医学全集16-II)
島尾 忠男 編 新結核病学概論
島尾, 内田 監修 結核看護
友田 不二夫 カウンセリングの技術
伊東 博 新訂 カウンセリング
吉本 二郎 学校経営学
佐伯 正一 教育方法

- 広岡亮蔵 中等教育原理
 伊藤和衛 教育行政学
 辰野千親 教育心理学
 橋爪貞雄 教育社会学
 沢田慶輔 道德教育の研究
 森昭 現代教育学原理
 重松鷹泰 初等教育原理
 ルソー, J. J. 長尾十三二訳 エミール I・II
 フレーベル, F. 岩崎次男訳 人間の教育 I・II
 ジェイムズ, M. 本明[等]訳 自己実現への道
 笠原喜編 ユキの日記
 田中, 岡田 看護科学へのアプローチ 看護
 相談・面接
 シュライバー, F. R. 卷正平訳 失われた私
 プーバー, M. 野口啓祐訳 孤独と愛
 ダンプロジオ, R. 関口英男訳 ローラ叫んでござ
 るん
 遠山啓 教育の蘇生を求めて
 遠山啓 競争原理を超えて
 遠山啓 水源をめざして
 デロウリイ, G. L. 千野[等]訳 専門職看護の歩
 み
 ウィーデンバック, E. 池田明子訳 コミュニケー
 ション
 橋本正己[等]編 衛生行政大要 (改訂10版)
 野村茂 生活と貧血 (改訂2版)
 アメリカ看護婦協会編 看護業務の基準
 日本看護協会保健婦部会 続・地域における保健婦
 の役割
 前田信雄 病める老人を地域でみる (日本
 の中高年 6)
 金子仁郎[等]編 講座 日本の老人 1~3巻
 [内科シリーズ]
 No. 1 心筋硬塞のすべて (2版)
 No. 3 糖尿病のすべて (2版)
 No. 4 脳卒中のすべて
 No. 10 自己免疫病のすべて
 No. 12 気管支喘息のすべて
 No. 13 肝炎のすべて
 No. 18 腎不全のすべて
 石川・林・菅原 手術前後の新しい管理
 織細秀夫編 外科領域の対症看護
 佐藤・小越 臨床外科栄養
 吉竹毅 術後代謝の基礎と臨床
 曲直部・岡田編 静脈栄養—基礎と臨床—
 コルブ, L. C. 浅井[等]訳 現代臨床精神医学
 プラーク, H. M. 加藤信訳 向精神薬
 ベーガー, M. M. 江畑敬介訳 病むということ
 ホルト, K. S. 新井清三郎訳 発達小児科学
 小林登 子どもは未来である
 今村栄一 現代育児学
 今村栄一 はじめての赤ちゃん
 ジョーリー, H. 小林登訳 ジョーリー博士の育児書
 馬場・二木 離乳のすすめ方と離乳
 松村康平 子どものおもちゃと遊びの指導
 池田恵一 ベッドサイドの小児外科
 鈴木雅洲[等]監修 産褥管理のすべて
 小川重男編 必修産婦人科学
 山下久雄[等] 新しい放射線看護の実際 (3版)
 重松・小張[等]編 伝染病予防必携
 Joan, P. R. & Roy, C. : Conceptual Models
 for Nursing Practice, 2nd
 ed.
 Blevins, D. R. : The Diabetic and Nursing
 Care
 Brunner, L. S. : Text Book of Medical Surgical
 Nursing, 4th ed.
 Downs, F. S. & Fleming, J. W. : Issues in
 Nursing Research
 Jasmin, S. & Trygstad, L. N. : Behavioral
 Concepts and Nursing Process
 Joklik, W. K. & Willet, H. P. : Zinsser
 Microbiology, 17th ed.
 Whaley, L. F. & Wong, D. M. : Nursing Care of
 Infants and Children
 Stewart, W. E. : Interferon System
 Robbins, S. L. : Pathologic Basis of Diseases
 Eisen, H. N. : Immunology
 Pujadas, G. : Coronary Angiography
 Henry, J. B. : Clinical Diagnosis & Management
 by Laboratory Methods
 Borrie, J. : Management of Thoracic Emer-
 gencies
 Mountcastle, V. : Medical Physiology

医学部移転に伴う 返戻図書、3万冊を越す

各講座、研究施設等からの亥鼻分館への返戻図書は、本年8月現在で33,784冊あった。

これは、本年度の亥鼻地区移転整備に伴い、主として、医学部から亥鼻分館に返戻されたもので、これまでの分館配架の図書と合わせるとほぼ10万冊となった。

図書館資料は、有効利用、散逸防止などの観点から、これまでもその管理運用の中央化に努めてきていたものであるが、このたびの医学部移転整備を機に、大がかりな図書の返戻が行われたものである。

当分館の整備計画は、現在の建物とその北側に隣接した合同校舎東側の一部の1階から4階までを書庫として使う予定となっており、合同校舎の改修が終る56年秋には新たに配架し、利用できる図書も大幅に増加することとなる。

看護シリーズ全10巻など

ビデオ・テープの閲覧始める

亥鼻分館には、ビデオ装置2台とビデオ・テープ「看護シリーズ」全10巻などテープ17種がある。

これまでは、一定のビデオ閲覧スペースの確保ができないため、随時、分館長室などでの利用をみたにすぎなかったが、分館の玄関に入って右側に「ビデオ室」を設け、ビデオ・テープの利用を開始した。

ビデオ・テープの閲覧希望は、カウンターで受け、閲覧は、ビデオ室で行うこととなっている。テープ及びビデオ装置の館外貸出しは行わない。

亥鼻分館所蔵ビデオ・テープ目録

□ ICU CCU トレーニングコース (全20巻の内)

〔循環器編〕

① 循環器の解剖と生理

- ② 冠性心疾患
- ③ ペースメーカとその臨床

〔呼吸器編〕

- ① 呼吸器の解剖と生理
- ② 長期人口呼吸と気管切開
- ③ 呼吸不全

□ 臨床医学大系 (全32巻の内)

① ペインクリニック

□ 看護シリーズ (全10巻)

- ① 原則とショック
- ② 体位と運搬
- ③ 包帯法
- ④ 創傷
- ⑤ 熱傷・日射病・凍傷
- ⑥ 骨折 I
- ⑦ 骨折 II
- ⑧ 心肺蘇生法
- ⑨ 突発的な病気 1
- ⑩ 突発的な病気 2

なお、以上のほかに閲覧したいビデオ・テープがあるときは、カウンター、投書箱等適宜な方法で申し出るよう分館では望んでいる。

ビデオ・テープ利用要領

- 1 利用できる曜日ならびに時間
月～金曜日の9時～16時30分まで
- 2 利用方法
 - ・申し込み
利用者(又は利用責任者)は、カウンター係員に申し出て「ビデオ・テープ利用簿」に必要事項を記入して申し込むこと。
(申し込みは予約も認める。重なった場合は先約順)
 - ・利用
 - 1) 初めての利用者は、機械操作等について、係員の説明を受け利用すること。
 - 2) 使用後は、室内、機械等を使用前の状態にもどし(コンセントもぬくこと)、直ちにテープをカウンターへ返すこと。

- 3) 使用途中に異常があった場合は、電源を切り、カウンターの係員に告げること。
 なお、カセット・テープの館外貸出は行わない。

日曜開館の試行を実施

亥鼻分館では、10月5日(日)から当分の間、日曜日の13時から17時までの4時間を開館し、図書の閲覧と貸出しを行う。

図書館サービスについてのニーズは多様で極めて大きいものがあるが、日曜開館について本年6月23日から2週間アンケートを実施した結果、回答総数211のうち86%にあたる183の開館希望があった。当分館では、このすう勢を踏まえて日曜の午後4時間開館の試行を実施することとしたものである。

なお、この試行の結果を検討し、日曜開館の実施を継続するかどうかなどの運営の資料としたいと考えている。

日曜開館アンケートの結果

(昭和55年6月27日～7月10日実施)

回答総数	211		
希望する	183	(内訳)	全日 111
			午後 59
			午前 5
必要なし	28		

研究者のための

入館管理システムを導入

研究者にとって、研究室と図書館がいつでも自由に使えるということは夢である。

しかし、大切な国有財産を預る立場から、夜間就労など勤務者の確保及び勤務態様など人事管理の立場から、また、維持管理に必要な経費の関係からなどさまざまな制約が加わって研究者の夢も、なかなか実現されないのが現状である。

このたび、亥鼻分館では、ホログラムという

光学技術を応用して作られた「ホログラムカード」による新しい入館方式を採用し、本年度内の試行を目指して準備中である。

この方式は、登録された教官、研究者にホログラムカードを渡し、カードの所有者は、いつでも分館の利用ができるようにしようとするものである。

この新しい入館管理方式については、準備の整った段階で、利用対象者に改めて通知することとしている。

将来計画策定のための

データ収集に積極的協力を

亥鼻分館の利用対象者数は2,500人である。毎日、約200人の入館者があり、38冊の本の貸出し(同数の返却)、54件の複写、週日は平均1件のJOIS利用となっている。この利用状況に対し、館員は14人、閲覧席数は57席、開架閲覧図書数は、本年度初めで6万冊、複写機3台、その他の設備で図書館への要求に応じている。

しかしながら、学習、研究への意欲の増大は、必ず、図書館への需要拡大となって表れ、資料不足、読書環境の改善、開館時間の延長等の要望となって表れてくる。

さらに、JOIS等情報検索手段の発達は、一次資料への要求を高め、文献交換・図書館間の複写依頼・受託件数の増加とスピードアップが望まれるようになる。

このようなすう勢に現分館がこたえていくため、より基礎的なデータを積み重ね、利用者の意見・要望等を集め、分館運営委員会を中心に大学の英知を結集していく必要に迫られているといえよう。

生物医学情報図書館は、現分館の発足に先立って作成された雄大な構想であったが、この構想を踏まえ、これからの学術の進展に対応する学習の場・研究基盤の一環として整備する将来計画策定に、利用者の積極的な発言、協力が望まれている。

附属図書館亥鼻分館は、主として、亥鼻キャンパス4部局みんなの図書館です。

亥鼻分館の管理・運営の基本方針、その他の重要な事項について審議し、議決し、よりよい亥鼻分館にしていくブレントラストでもあるのが「亥鼻分館運営委員会」です。

本年度の運営委員は、次の方がたです。

昭和55年度附属図書館 亥鼻分館運営委員名簿

〔運営委員〕

氏名	所属(内線電話)
萩原 彌四郎	分館長、医学部教授(神経薬理)(2220)
林 豊	医学部教授(肺癌研究施設病理研究部)(2145)
内田 昭夫	医学部教授(環境疫学研究施設農村医学研究部)(2150)
平山 朝子	看護学部助教授(社会保健学)(4096)
兼松 百合子	看護学部助教授(小児看護学)(4070)
林 誠	生物活性研究所教授(酵素化学研究部)(5013)
西村 和子	生物活性研究所助教授(食中毒研究部)(5038)
渡辺 昌平	医学部教授(肺癌研究施設第二臨床研究部)(2140)
中島 博徳	医学部附属病院教授(小児科)(2248)
杉山 裕	附属図書館事務部長(51-1111内2250)

〔事務局〕

江口 元 附属図書館亥鼻分館事務長(2801)

医学部図書委員会からの要望事項と回答

(R: 要望事項 A: 分館の回答)

- R: 借用期間をもっと延長してほしい。また、更新時に現物の提示なしでできないか。
- A: 利用者全体から考えて、一週間は妥当と思われる。
- 更新は、返納後の再貸出であるから、現物の提示は当然しなければならない。
- R: 返却期限を守ろうとしない者、返却遅滞を繰り返す者には、貸出禁止とかの処分が必要だと思う。
- A: 現在は、毎月初めに返却状況を調べ、掲示により督促しているが、処分はしていない。図書館としても、極端な者には、貸出停止等の対応策を考えていきたい。
- R: 貸出頻度の高い本は複数購入し、うち、一冊は、禁帯出本にしてほしい。
- A: 図書館としても、特に利用の多い単行書は予算の範囲内で複本購入を配慮している。禁帯出本扱いについては検討したい。
- R: JOISの私費利用を認めてほしい。
- A: 現在、その方向で準備を進めている。

分館ニュースに投稿を

亥鼻分館について、利用者の皆さんからの意見・要望・問い合わせなどを、次の要領で投稿して下さい。

“投稿される方へ”

- 原稿は、長くとも600字前後とします。
- 投稿の趣旨は変えないように手を加えることがあります。あらかじめ御了承下さい。
- 氏名、所属、連絡先を明記して下さい。匿名のものは掲載しません。
- 掲載については、分館運営委員会で決めますが、投稿されたものは、すべて委員会で検討し、参考とされます。